
5 地域別構想

5

地域別構想

本市は昭和の町村合併により成立し、歴史・文化的条件、地理的条件、さらには道路・交通条件等による産業構造などが異なる地域から構成されています。

このことを踏まえ、全体構想が全市的な観点から都市づくりの方針を位置づけていることに対し、地域別構想では各地域の特性や課題が異なる地域ごとに、地域の個性を活かした“まちづくり方針”等を定めます。

5-1 地域別構想の基本的な考え方

(1) 地域づくりの基本方針

地域別構想においては、『都市づくりの基本方針』で定めた6つの基本方針の実現に向けて、次の考え方に基づいて「地域づくりの目標」「地域づくりの方針」を定めます。

- ①市街地ゾーン（市街化区域）においては“都市づくりの基本方針：(1)居住・都市機能の集約による持続的発展が可能なコンパクトな都市づくり”の実現を主目標として「地域づくりの目標」「地域づくりの方針」を定めます。
- ②田園・森林ゾーン（市街化調整区域・都市計画区域外）においては“都市づくりの基本方針：(2)地域コミュニティ機能が安定した定住環境づくり”の実現を主目標として「地域づくりの目標」「地域づくりの方針」を定めます。
- ③あわせて、各地域の特性に応じて、“都市づくりの基本方針：(3)多様な雇用の場となる産業を創造する活力ある高知の玄関都市づくり”、“都市づくりの基本方針：(4)選択と集中により快適性等を向上させる都市施設づくり”、“都市づくりの基本方針：(5)誰もが安全で安心して暮らせる都市環境づくり”、“都市づくりの基本方針：(6)郷土の自然・歴史・文化資源と共存する「土佐のまほろば」の都市景観づくり”の実現に向け、地域固有の課題解決や資源の活用に資する「地域づくりの方針」を定めます。

(2) 地域区分の考え方

地域の区分は、市民が日々暮らす身近な生活圏として大字を基本単位とする小学校区、中学校区等を考慮し、「北部山間地域」「北東地域」「北西地域」「中央地域」「南東地域」「南西地域」の6地域に区分し、地域別にまちづくりの方針等を定めます。

【地域区分において考慮した事項】

- ①身近なコミュニティ単位である町・大字を基礎単位として地域を構成します。
- ②小学校区を基礎単位として中学校区を考慮し、地域を構成します。
- ③北部の山間地（都市計画区域外）は1つの地域とします。
- ④JR後免駅・南国市役所周辺の中心市街地とその周辺地域は1つの地域とします。
- ⑤岡豊地区（高知大学医学部周辺）は、農地が広がっていますが農用地区域に指定されていないことから、1つの地域とします。

表 地域区分一覧

地域区分	コミュニティ	区域区分	小・中学校区	面積 (ha)	平成27年 人口(人)
①北部山間地域	瓶岩地区、上倉地区	都市計画区域外	奈路小学校、白木 谷小学校 ／北陵中学校	5,917	1,140
②北東地域	久礼田地区、国府地区	市街化区域、 市街化調整区域	久礼田小学校、国 府小学校 ／北陵中学校	857	3,823
③北西地域	岡豊地区	市街化調整区域	岡豊小学校 ／北陵中学校	1,262	4,937
④中央地域	長岡地区、後免地区 野田地区、大篠地区	市街化区域、 市街化調整区域	長岡小学校、後免 野田小学校 ／鳶ヶ池中学校 大篠小学校 ／香長中学校	1,658	22,413
⑤南東地域	岩村地区、日章地区 前浜地区	市街化調整区域	日章小学校、大湊 小学校 ／香南中学校	1,323	6,028
⑥南西地域	三和地区、稲生地区 緑ヶ丘地区、十市地区	市街化区域、 市街化調整区域	三和小学校、稲生 小学校、十市小学 校 ／香長中学校	1,513	9,641
(合計)	16 地区	—	13 小学校 ／4 中学校	12,530	47,982

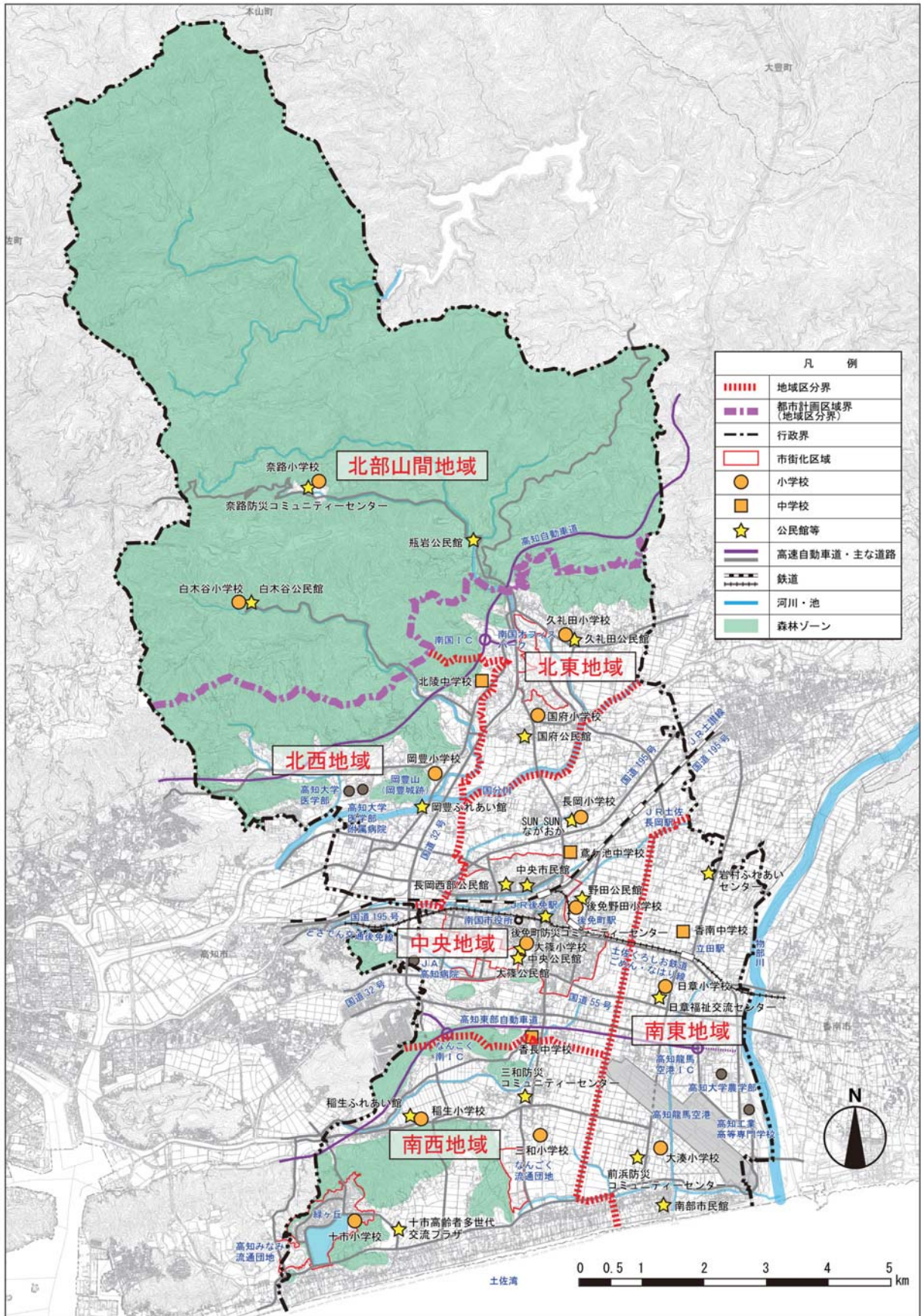


図 地域区分図

5-2 地域別まちづくりの方針

(1) 北部山間地域【瓶岩、上倉地区】

1) 地域の現状等と主な課題

①地域の概況

ア 位置、特性

北部山間地域は、本市の最北部に位置し、都市計画区域外となっています。

北は笹ヶ峰（標高 1,131m）を起点として概ね標高 100m以上の山地となり、奈路川、笠ノ川川沿いの谷部や溪谷を県道が通り、また国道 32 号が外山川付近を通り、これらの沿道等に集落が形成されています。

本地域は、白木谷の梅林・タチバナ、桑の川の鳥居杉、瀬戸の滝等の自然資源、才谷龍馬公園（歴史・文化資源）、黒滝自然館せいらん（観光資源）があり、本市の“水と緑の拠点”となっています。

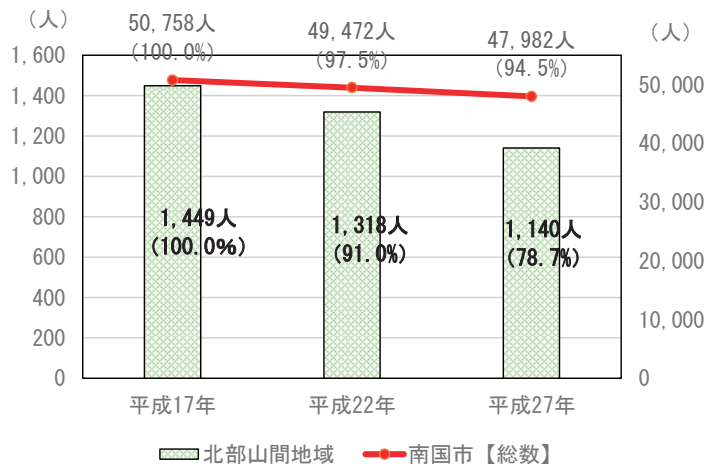


図 北部山間地域位置図

イ 人口の推移

平成 27 年時点の人口は 1,140 人で、10 年前（平成 17 年）の 78.7% となり、減少が続いています。

南国市（全市）における平成 17 年～27 年間の人口減少率（94.5%）と比較し、大きな減少率となっています。

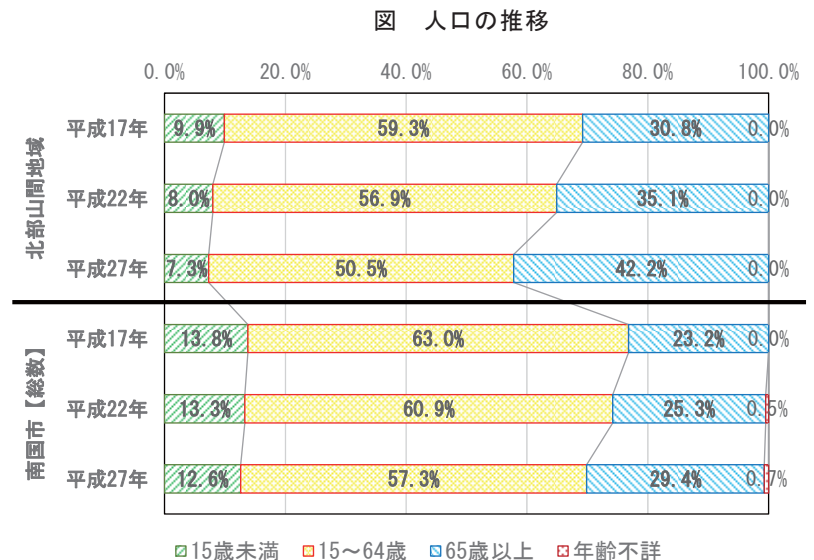


資料：国勢調査

ウ 年齢3区分別人口構成比

平成 27 年時点において、15 歳未満人口は 7.3%、65 歳以上人口は 42.2% となっています。

南国市（全市）の平成 27 年時点の 15 歳未満人口は 12.6%、65 歳以上人口は 29.4% で、この比率と比べて少子・高齢化が一層進んでいます。



資料：国勢調査

図 年齢3区分別人口構成比

工 世帯数の推移

平成27年時点の世帯数は468世帯で、10年前（平成17年）の92.1%となり、減少が続いています。

南国市（全市）では平成17～27年間に於いて、世帯数は101.0%に微増しています。

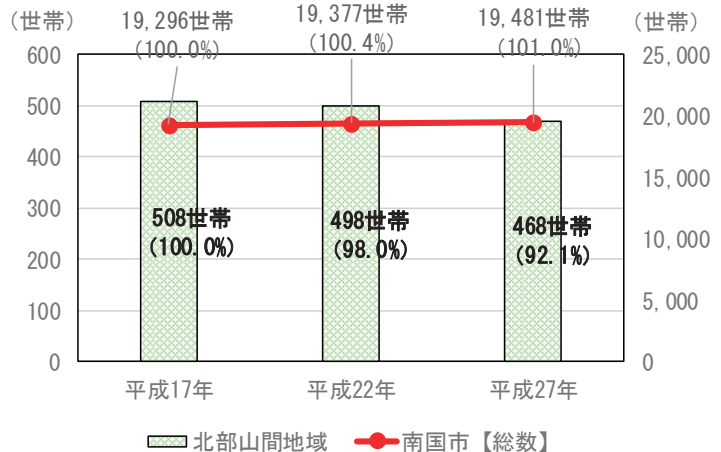


図 世帯数の推移

オ お住まいの周辺環境の項目別満足度【市民意向調査結果、2017（平成29）年8月調査】

「山林や水辺周辺の自然環境」（+0.96）などの“自然等”、「治安・交通安全対策」（+0.41）などの“安全性”はプラス（満足とする回答者が多い。）の評価となっています。

一方、「電車・バスなどの公共交通の便」（-1.67）、「下水道の整備」（-0.88）、「生活道路の整備」（-0.74）などの“快適性”や、「娯楽施設」（-1.20）、「スポーツ・レクリエーション施設」（-1.04）、「高齢者等の福祉施設」（-0.75）などの“利便性等”はほぼ全項目がマイナス（不満足とする回答者が多い。）の評価となっています。

また、「土砂災害、洪水などの風水害対策」がマイナス（-0.34）となっています。

全市の回答でプラスの評価となっている「土砂災害、洪水などの風水害対策」「住宅地の安全性・衛生面・快適さなど」「幹線道路の整備」「水道の整備」「日常の買物」「病院・診療所」「幼稚園・保育所」「地域の小中学校」の評価がマイナスに変化しています。

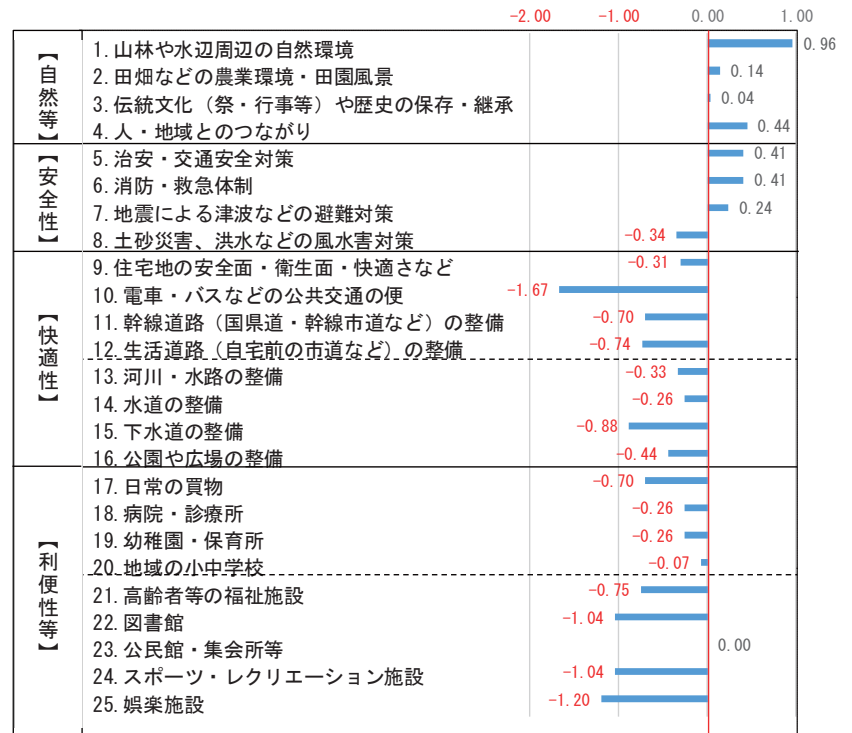


図 北部山間地域・回答者の集計結果

（回答票総数 29 票 = 100.0%）

注：「満足」：+2点、「やや満足」：+1点、「ふつう」：0点、「やや不満」：-1点、「不満」：-2点とし、合計点数を回答票数で除した平均値を満足度の評価点として整理しています。

②主な課題

北部山間地域の現状、住民の意向等を踏まえると、次のように、本地域の特徴的な課題が整理できます。

《主な課題》

- 本市で最も著しい人口減少が続き、集落の地域コミュニティの機能低下を防止するための対応が必要になっています。
- 自然災害の対策や公共交通、道路、情報通信環境の整備が求められています。
- 豊かな自然環境等を保全するとともに、これを活かした地域交流が望まれています。

2) 地域づくりの目標

清らかな水が流れ、豊かな森に抱かれた自然を守り、豊かな自然と触れ合える機会を活かしながら、安心して暮らし続けられる里づくりを目指します。

《地域づくりの目標》

清流と豊かな森に抱かれた、人にやさしい里づくり

3) 地域づくりの方針

“地域づくりの目標”の実現に向けて、次の“地域づくりの方針”を定めます。

《地域づくりの方針》

- ①自然災害への備えや快適性・利便性の向上に努め、安心して暮らせる生活環境の充実を促進します。
- ②清らかな水と豊かな森の自然を守り、自然との触れ合いを活かします。

①自然災害への備えや快適性・利便性の向上に努め、安心して暮らせる生活環境の充実を促進します。

ア 自然災害対策や救急体制の充実に努めます。

- ・自然災害への対策や、小学校等の避難施設、救急体制の充実に努め、安心して暮らせる環境づくりを図ります。

イ 情報通信環境の整備検討や公共交通の確保を図ります。

- ・瓶岩地区の光ケーブルなどの情報通信設備の整備を目指すとともに、乗合タクシーの利用促進やスクールバスの運行により住民の移動手段を確保し、生活環境の基盤づくりに努めます。

ウ 空き家等を活用し、定住人口の確保に努めます。

- ・自然災害対策や快適性・利便性の向上により人口減少を抑制するとともに、今後も空き家を活用した市営住宅の供給を検討するなど、空き家や空き地の活用等を地域住民等との協働により促進し、一定の定住人口の確保に取り組み、地域コミュニティ機能の維持に努めます。
- ・奈路小学校、白木谷小学校、瓶岩体育館・公民館付近を「集落拠点」として位置づけ、既存の生活サービス施設の保全、活用等を促進するとともに、周辺における集住への緩やかな誘導に努めます。

② 清らかな水と豊かな森を守り、自然との触れ合いを活かします。

ア 開発行為等を抑制し、森林環境の保全に努めます。

- ・森林エリアは「水と緑の拠点」として位置づけ、生物多様性保全、地球環境保全、土砂災害防止機能、水源涵養機能、保健・レクリエーション機能、文化機能などの多面的な機能を有していることを踏まえ、開発行為等を抑制し、森林環境の保全に努めます。

イ 地域の資源を活用し、市民が親しみ、交流できる郷土の森として活用に努めます。

- ・自然資源の白木谷の梅林・タチバナ、桑の川の鳥居杉、瀬戸の滝や、歴史・文化資源である才谷龍馬公園、参勤交代北山道、観光資源となる黒滝自然館せいらんを保全、活用するとともに情報発信設備等の整備を促進し、自然を活かしたレクリエーション活動等の活性化を促進し、市民が自然に親しみ、交流できる郷土の森として活用に努めます。また、中山間地域の特産品である四方竹の販売促進などの普及に努めます。
- ・また、地域内での交流人口の増加に努めて観光施設等の拡充や創出を促進し、集落環境づくりへの活力として活かします。

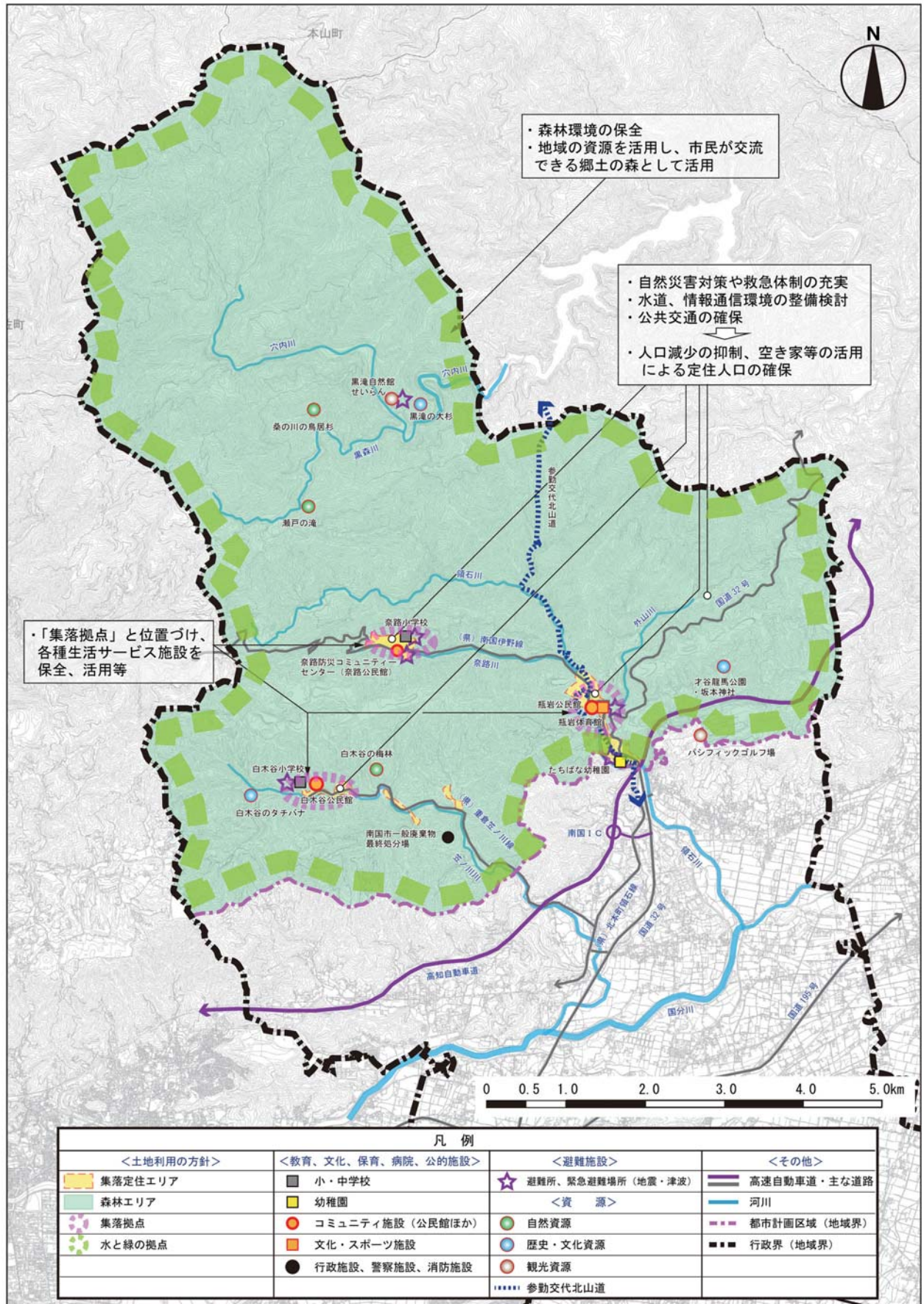


図 北部山間地域の地域づくり方針図

(2) 北東地域【久礼田、国府地区】

1) 地域の現状等と主な課題

①地域の概況

ア 位置、特性

北東地域は本市の北東部に位置し、国分川右岸流域と支流の領石川の流域等から構成されています。

北側は標高が概ね 60～250mの山地となっています。高知自動車道が山際を横断して南国インターチェンジがあり、この東側に南国オフィスパーク等の産業団地が形成され、市街化区域となっています。

北部の山際は概ね 20～50mの台地となり、主要な幹線道路の沿道に集落が形成され、周辺は優良農地が広がっています。また、南部は土佐国分寺や紀貫之邸跡などの歴史資源があります。

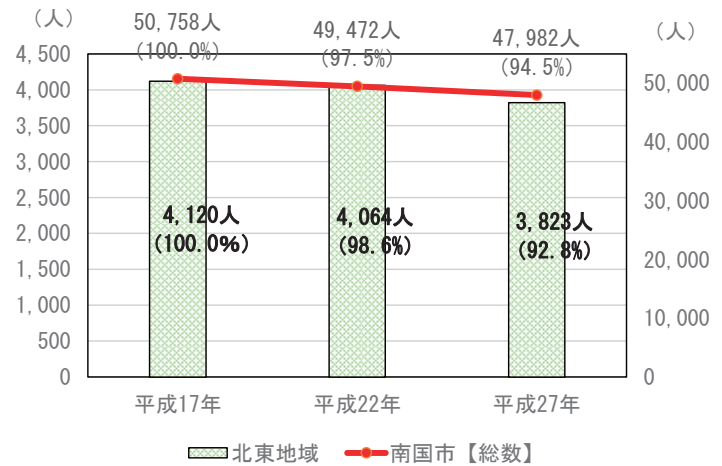


図 北東地域位置図

イ 人口の推移

平成 27 年時点の人口は 3,823 人で、10 年前（平成 17 年）の 92.8% となり、減少が続いています。

南国市（全市）における平成 17～27 年間の人口推移（94.5% に減少）とほぼ同率で減少しています。



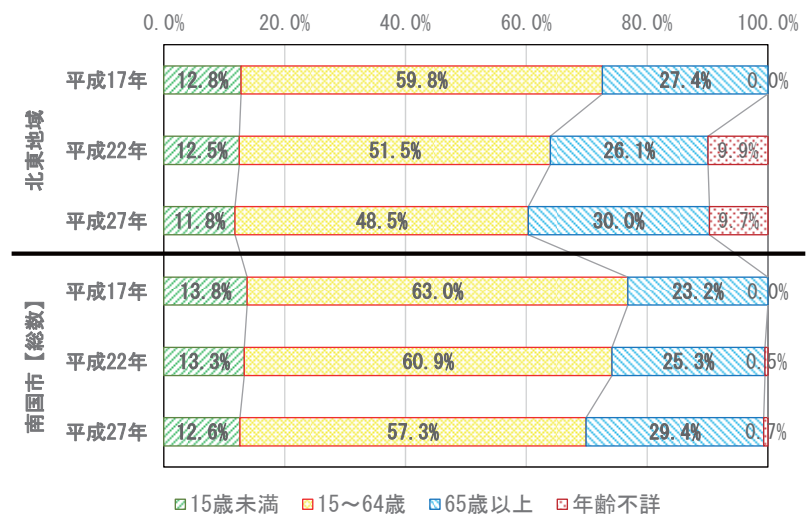
資料：国勢調査

図 人口の推移

ウ 年齢3区分別人口構成比

平成 27 年時点において、15 歳未満人口は 11.8%、65 歳以上人口は 30.0% となっています。

南国市（全市）の平成 27 年時点の 15 歳未満人口は 12.6%、65 歳以上人口は 29.4% で、少子・高齢化が全市とほぼ同様に進んでいます。



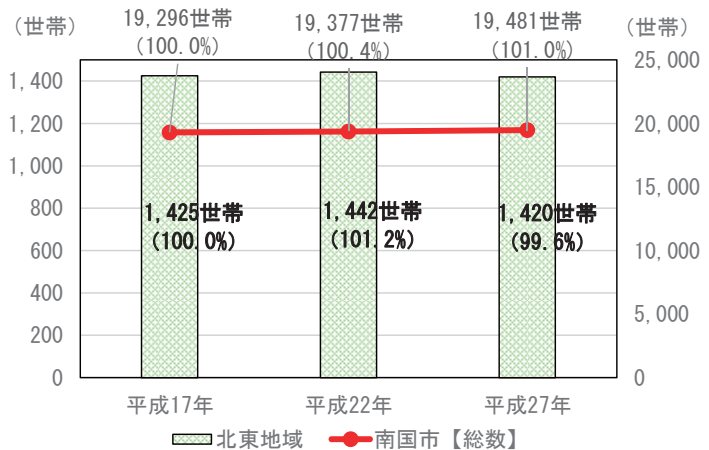
資料：国勢調査

図 年齢3区分別人口構成比

工 世帯数の推移

平成 27 年時点の世帯数は 1,420 世帯で、平成 22 年から減少に転じ、10 年前（平成 17 年）の 99.6%となっています。

南国市（全市）では平成 17～27 年間に於いて、世帯数は 101.0%に微増しています。



資料：国勢調査

図 世帯数の推移

オ お住まいの周辺環境の項目別満足度【市民意向調査結果、2017（平成 29）年 8月調査】

「田畑などの農業環境・田園風景」（+0.71）、「山林や水辺周辺の自然環境」（+0.60）などの“自然等”、「消防・救急体制」（+0.57）などの“安全性”はプラス（満足とする回答者が多い。）の評価となっています。

一方、「電車・バスなどの公共交通の便」（-1.08）、「生活道路の整備」（-0.50）などの“快適性”や、「娯楽施設」（-0.83）、「図書館」（-0.81）、「スポーツ・レクリエーション施設」（-0.65）、「日常の買物」（-0.50）などの“利便性等”は多数の項目がマイナス（不満足とする回答者が多い。）の評価となっています。

全市の回答でプラスの評価となっている「幹線道路の整備」「日常の買物」「病院・診療所」の評価がマイナスに変化しています。

一方、「下水道の整備」の評価はマイナスからプラスに変化しています。

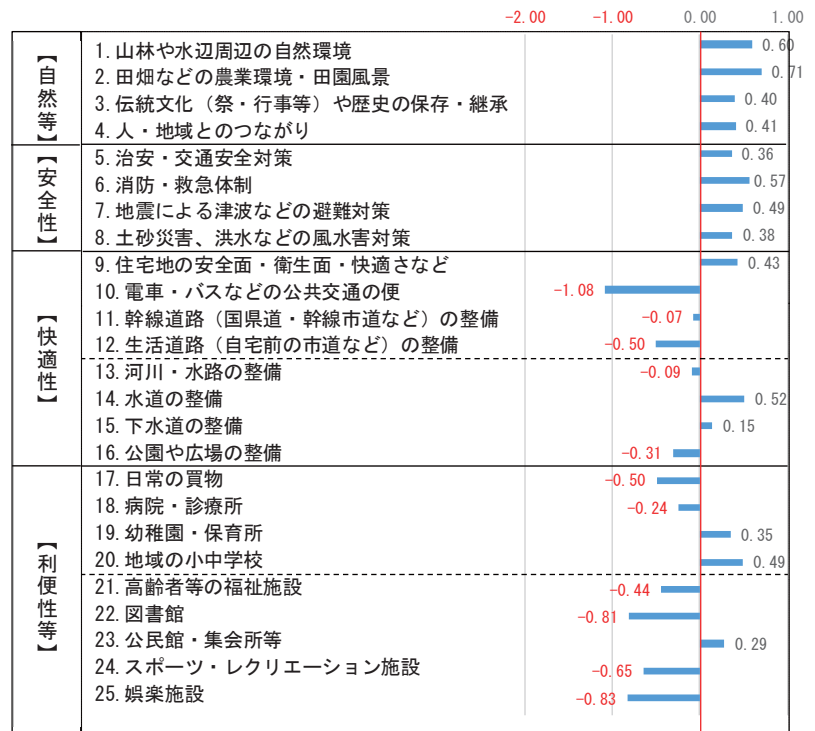


図 北東地域・回答者の集計結果

（回答票総数 102 票＝100.0%）

注：「満足」：+2点、「やや満足」：+1点、「ふつう」：0点、「やや不満」：-1点、「不満」：-2点とし、合計点数を回答票数で除した平均値を満足度の評価点として整理しています。

②主な課題

北東地域の現状、住民の意向等を踏まえると、次のように、本地域の特徴的な課題が整理できます。

《主な課題》

- 全市並みの人口減少が続いており、地域コミュニティ機能を維持するための対応が必要になっています。
- 南国インターチェンジの交通条件等を活かした南国オフィスパーク等の産業団地があり、昼間人口は多いものの、夜間人口は減少傾向にあります。この夜間人口減少の改善を目的として、空き地・空き家の利活用や新規住宅地の需要が高まっています。
- 公共交通や集落内の幹線的な道路等の整備が求められています。
- 土佐国分寺や紀貫之邸跡などの歴史資源を活かした観光・交流の活性化が望まれています。
- 南国インターチェンジの交通条件等を活かした南国オフィスパーク等の産業団地がありますが、新規の用地需要に供給できる用地が不足しています。

2) 地域づくりの目標

豊かな自然と歴史・文化から創造された“土佐のまほろば”の里で、安心して暮らし続けられる集落と高知の陸路の玄関口に活力ある産業が共生するまちづくりを目指します。

《地域づくりのテーマ》

**安らぎのまちと活力ある産業が心を通わせる、
土佐のまほろばの里づくり**

3) 地域づくりの方針

“地域づくりの目標”の実現に向けて、次の“地域づくりの方針”を定めます。

《地域づくりの方針》

- ①古くから住み続けている集落の定住環境づくりを促進します。
- ②歴史・文化を守り、次世代に継承するとともにまちづくりに活かします。
- ③交通要衝である南国インターチェンジを活かし、産業の秩序ある立地を検討します。

①古くから住み続けている集落の定住環境づくりを促進します。

ア 集落環境の向上と地域コミュニティ機能の維持に努めます。

・集落定住エリアにおいて、長期的観点に立って、地域住民等との協働により狭あい道路等の改善や空き家の活用を促進します。また、空き地・未利用地等の利用を市街化調整区域の開発許可基準等に照らして検討し、一定の人口規模の確保に取り組み、地域コミュニティ機能の維持に努めます。

- ・久礼田小学校、国府小学校付近を「集落拠点」として位置づけ、既存の生活サービス施設の保全、活用等を促進するとともに、周辺における集住への緩やかな誘導に努めます。
- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略における移住政策のモデルケースとして、市外からの移住や、津波移転等を視野に入れた集住の誘導とともに集落環境の向上を目指し、植野地区において民間活力を活用した計画的な住宅団地の整備を検討していきます。
- ・集落周辺の優良農地、豊かな自然環境は、保全を図ります。

イ 周辺と結ぶ道路網の整備推進や公共交通の改善を検討します。

- ・「歴史文化拠点」や「産業拠点」と周辺を結ぶ道路網の整備を推進します。
- ・中心拠点へのバスダイヤや経路等の見直しなどにより、公共交通サービスの改善を検討します。

②歴史・文化を守り、次世代に継承するとともにまちづくりに活かします。

ア 伝統・文化を活かした観光・交流活動の活性化に努めます。

- ・土佐国分寺や紀貫之邸跡をはじめとする国分・比江地区を中心に形成されている“土佐のまほろば風景街道” 1 帯を「歴史文化拠点」として位置づけ、情報発信設備等の整備や、おへんろ等の来訪者への支援、滞在施設の充実を検討し、これらを活かした観光・交流活動の活性化に努めます。

イ 歴史・文化資源一帯の景観保全を促進します。

- ・地域の伝統文化を守り、次世代に継承することを目指し、歴史・文化資源の保全とともに、周辺の田園風景や背景の山並みなどの自然景観と一体となった景観保全を促進します。

③交通要衝である南国インターチェンジを活かし、産業の秩序ある立地を検討します。

ア 南国オフィスパーク等の産業集積の街にふさわしい緑化や景観の保全を促進します。

- ・南国オフィスパーク周辺の工業団地、産業団地は「産業拠点」として位置づけ、産業集積の街にふさわしい緑化や景観形成とともに集落に隣接する区域の緑化を促進し、地域の山並みや田園の景観と調和した景観の形成を促進します。

イ 南国インターチェンジ近傍の幹線道路沿道の適地において、産業の秩序ある立地を検討します。

- ・南国インターチェンジ近傍の市道南国 126 号線や国道 32 号の沿道の交通条件に恵まれたエリアの適地において、自然環境の保全や農業との調和を基本とし、新たな産業用地の計画的な整備を検討します。

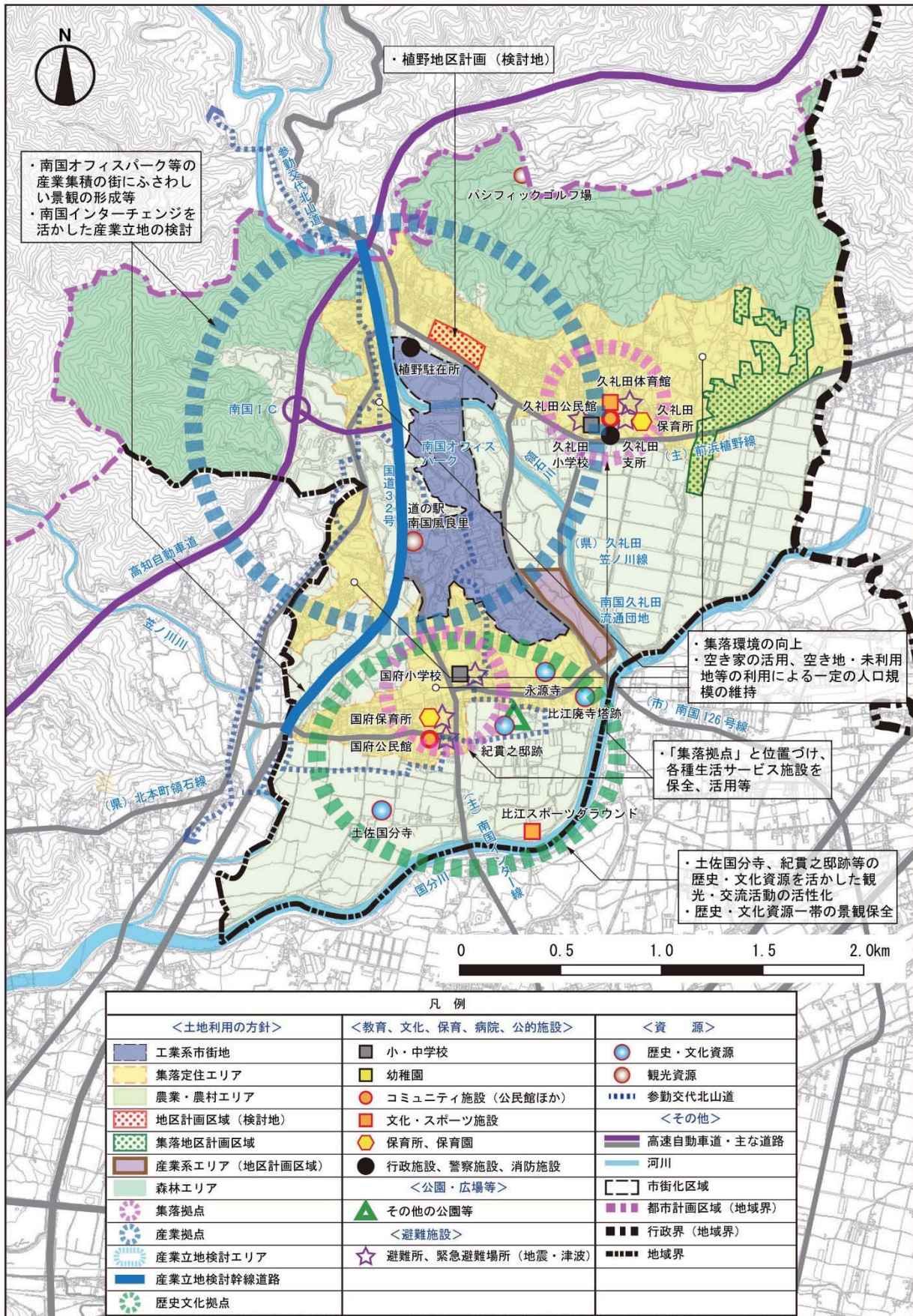


図 北東地域の地域づくり方針図

(3) 北西地域【岡豊地区】

1) 地域の現状等と主な課題

①地域の概況

ア 位置、特性

北西地域は本市の北西部に位置し、国分川右岸流域と支流の笠ノ川川の流域等から構成されています。

北側は標高が概ね 60～250mの山地となり、また国分川と笠ノ川川の合流点付近の岡豊山（標高約 100m）に岡豊城跡があります。

全域が市街化調整区域で、中央部の平坦地に高知大学医学部、附属病院が立地しています。

集落は県道沿いに連続的に形成され、周辺に農地が続いています。また、産業団地が県道や地域東部を南北方向に通る国道 32 号の沿道に立地しています。

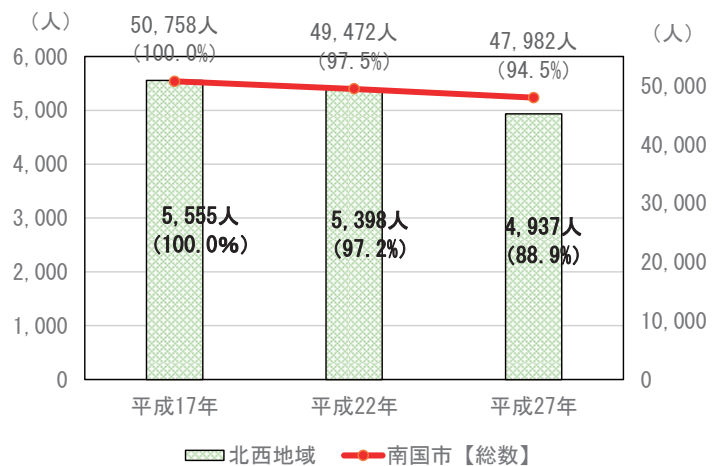


図 北西地域位置図

イ 人口の推移

平成 27 年時点の人口は 4,937 人で、10 年前（平成 17 年）の 88.9% となり、減少が続いています。

南国市（全市）における平成 17～27 年間の人口推移（94.5% に減少）と比較し、減少率が大きくなっています。



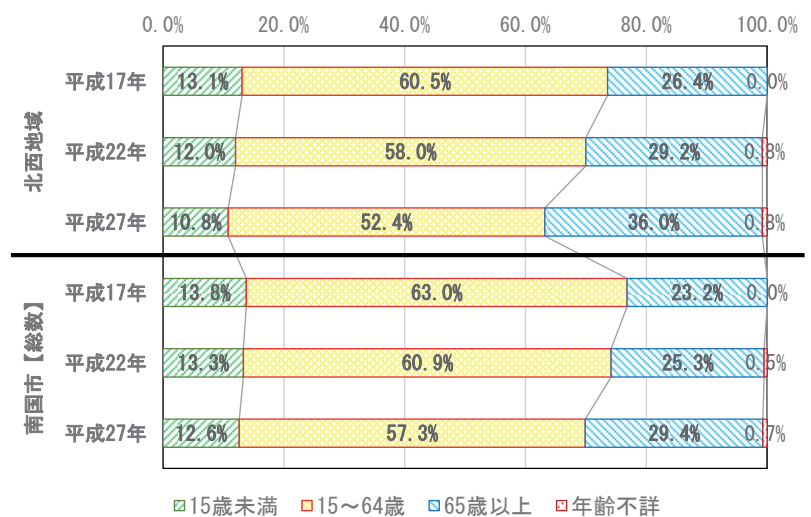
資料：国勢調査

図 人口の推移

ウ 年齢3区分別人口構成比

平成 27 年時点において、15 歳未満人口は 10.8%、65 歳以上人口は 36.0% となっています。

南国市（全市）では平成 27 年時点において、15 歳未満人口は 12.6%、65 歳以上人口は 29.4% で、これと比較して少子・高齢化が進んでいます。



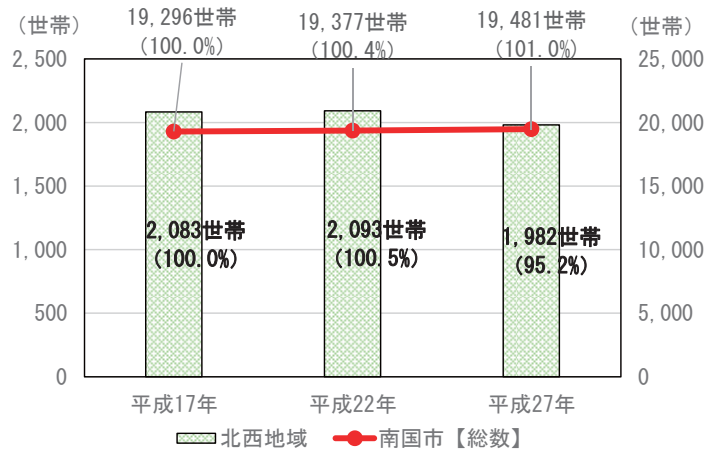
資料：国勢調査

図 年齢3区分別人口構成比

工 世帯数の推移

平成 27 年時点の世帯数は 1,982 世帯で、平成 22 年から減少に転じ、10 年前（平成 17 年）の 95.2%となっています。

南国市（全市）では平成 27 年世帯数は、平成 17 年の 101.0%に微増しています。



資料：国勢調査

図 世帯数の推移

オ お住まいの周辺環境の項目別満足度【市民意向調査結果、2017（平成 29）年 8 月調査】

「山林や水辺周辺の自然環境」（+0.77）、「田畑などの農業環境・田園風景」（+0.76）などの“自然等”、「消防・救急体制」（+0.29）などの“安全性”はプラス（満足とする回答者が多い。）の評価となっています。

一方、「電車・バスなどの公共交通の便」（-1.16）、「公園や広場の整備」（-0.72）、「下水道の整備」（-0.58）などの“快適性”や、「娯楽施設」（-1.05）、「スポーツ・レクリエーション施設」（-0.76）、「図書館」（-0.68）、「日常の買物」（-0.56）などの“利便性等”は多数の項目がマイナス（不満足とする回答者が多い。）の評価となっています。

全市の回答でプラスの評価となっている「土砂災害、洪水などの風水害対策」「日常の買物」「病院・診療所」の評価がマイナスに変化しています。

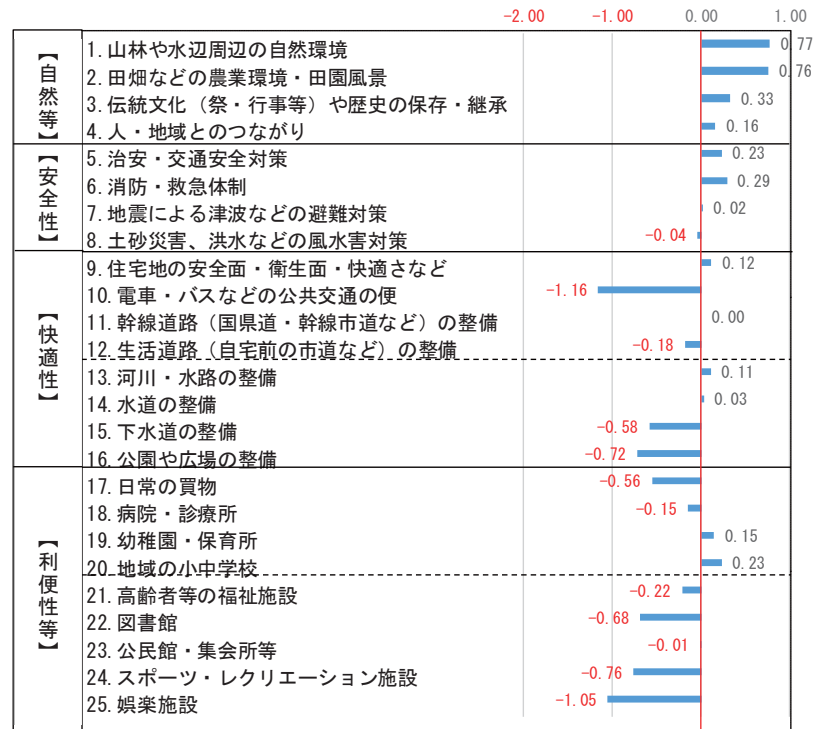


図 北西地域・回答者の集計結果

（回答票総数 107 票=100.0%）

注：「満足」：+2点、「やや満足」：+1点、「ふつう」：0点、「やや不満」：-1点、「不満」：-2点とし、合計点数を回答票数で除した平均値を満足度の評価点として整理しています。

②主な課題

北西地域の現状、住民の意向等を踏まえると、次の主な課題が整理できます。

《主な課題》

- 全市並みの人口減少が続いており、地域コミュニティ機能を維持するための対応が必要になっています。
- 公共交通や下水道、公園等の整備が求められています。
- 歴史・文化や高知大学医学部、同附属病院を活用したまちづくりが望まれています。
- 国道 32 号沿道は利便性を活かした秩序ある活用が望まれています。

2) 地域づくりの目標

岡豊城跡周辺の歴史・文化を土台に、高知大学医学部・同附属病院による新たな健康・文化を創造するとともに、心豊かに暮らし続けられる集落と産業を育むまちづくりを目指します。

《地域づくりのテーマ》

歴史・文化と医療研究が融合し、心豊かな暮らしと産業を育むまちづくり

3) 地域づくりの方針

“地域づくりの目標”の実現に向けて、次の“地域づくりの方針”を定めます。

《地域づくりの方針》

- ① 古くから住み続けている集落の定住環境づくりを促進します。
- ② 歴史・文化を活かして観光・交流を育み、まちづくりに活かします。
- ③ 高知大学医学部等を活かし、研究学園づくりを目指します。
- ④ 交通要衝の立地条件を活かし、産業の秩序ある立地を検討します。

① 古くから住み続けている集落の定住環境づくりを促進します。

ア 集落環境の向上と地域コミュニティ機能の維持に努めます。

- ・ 集落定住エリアにおいて、長期的観点に立って、地域住民等との協働により狭あい道路等の改善や空き家の活用を促進します。また、空き地・未利用地等の利用を市街化調整区域の開発許可基準等に照らして検討し、一定の人口規模の確保に取り組み、地域コミュニティ機能の維持に努めます。
- ・ 岡豊小学校付近を「集落拠点」として位置づけ、既存の生活サービス施設の保全、活用等を促進するとともに、周辺における集住への緩やかな誘導に努めます。
- ・ 集落周辺の豊かな自然環境等は、保全を図ります。

イ 周辺と結ぶ道路網の整備推進や公共交通の改善を検討します。

- ・「歴史文化拠点」や「研究学園拠点」周辺を結ぶ道路網の整備を推進します。
- ・中心拠点へのバスダイヤや経路等の見直しなどにより、公共交通サービスの改善を検討します。

②歴史・文化を活かして観光・交流を育み、まちづくりに活かします。

ア 岡豊城跡周辺の歴史・文化資源の集積エリアの景観保全に努めます。

- ・岡豊城跡周辺の歴史・文化資源が集積するエリアを「歴史文化拠点」として位置づけ、関係住民との協働により資源の保全や周辺の田園景観・自然景観と一体となった景観保全に努めます。

イ 観光と交流の活性化を図り、まちの活性化等への活用を促進します。

- ・岡豊城跡周辺において、来訪者のための周辺整備や観光案内・情報の提供を促進して観光と交流の活性化を図り、まちの活性化や魅力づくりへの活用を促進します。

③高知大学医学部等を活かし、研究学園づくりを目指します。

ア 高知大学医学部周辺において研究学園づくりを目指します。

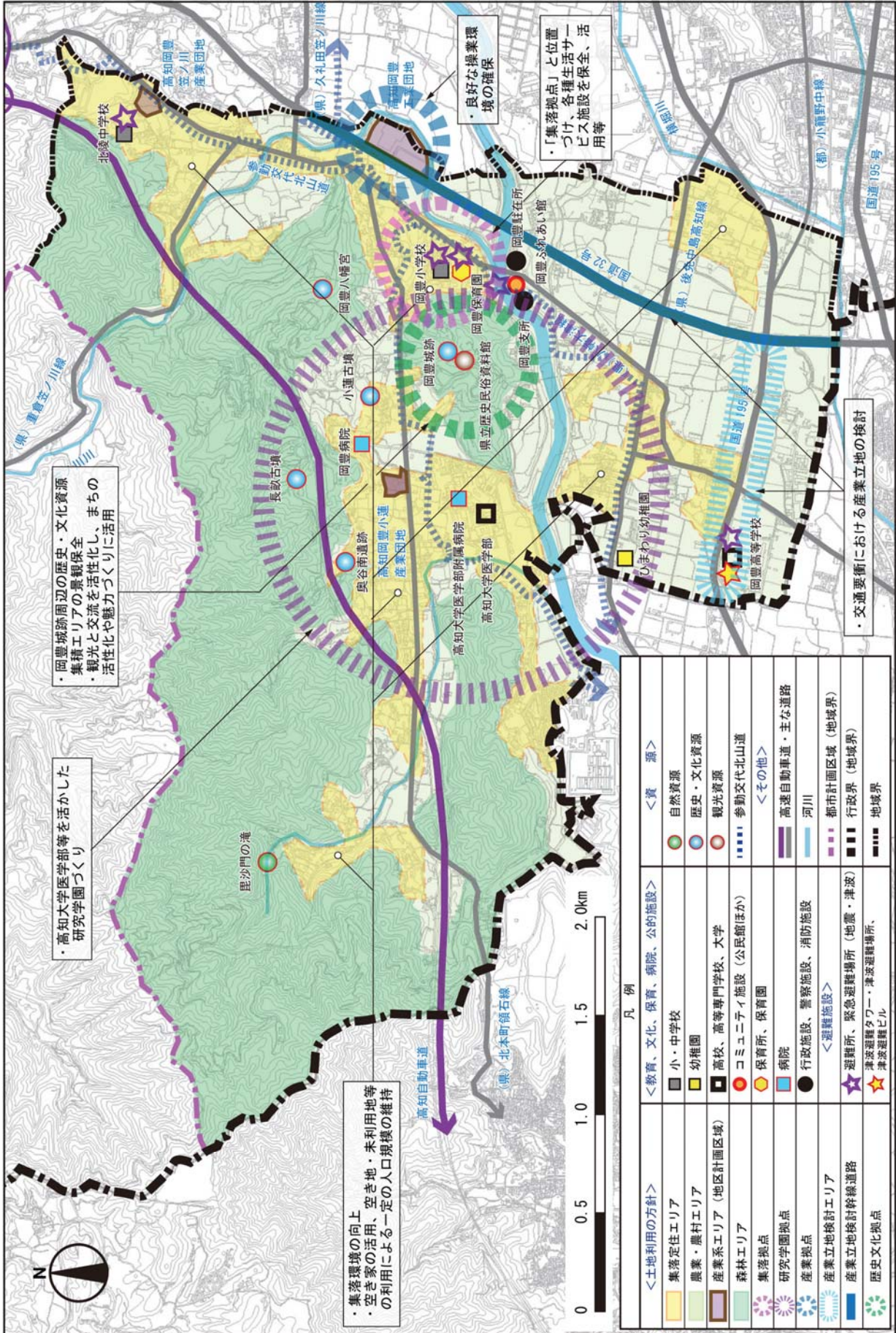
- ・高知大学医学部周辺を「研究学園拠点」として位置づけ、新たな健康・文化を創造する研究学園づくりを目指します。また、高知大学医学部周辺において、医学部関係者の住宅、宿泊施設等の適正な立地を検討します。

イ 「研究学園拠点」のアクセス道路の整備を検討します。

- ・高知大学医学部附属病院周辺の「研究学園拠点」と国道 32 号又は（県）後免中島高知線方面と連絡する幹線的な道路の整備を検討します。

④交通要衝の立地条件を活かし、産業の秩序ある立地を検討します。

- ・高知岡豊工業団地を「産業拠点」に位置づけ、高知岡豊笠ノ川産業団地、高知岡豊小蓮産業団地とともに、周辺の集落や農業への影響に配慮しつつ良好な操業環境の確保を促進します。
- ・また、南国インターチェンジ、高知市方面に連絡する国道 32 号やこれより以西の国道 195 号沿道の適地において、自然環境の保全や農業との調和を基本とし、新たな産業用地の計画的な整備を検討します。



・岡豊城跡周辺の歴史・文化資源
 集積エリアの景観保全
 ・観光と交流を活性化し、まちの
 活性化や魅力づくりに活用

・高知大学医学部等を活かした
 研究学園づくり

・集落環境の向上
 ・空き家の活用、空き地・未利用地等
 の利用による一定の人口規模の維持

・良好な操業環
 境の確保

・「集落拠点」と位置
 づけ、各種生活サ
 ビス施設を保全、活
 用等

・交通要衝における産業立地の検討

凡例	
<土地利用の方針>	<資源>
集落定住エリア	自然資源
農業・農村エリア	歴史・文化資源
産業系エリア(地区計画区域)	観光資源
森林エリア	参加交代北山道
集落拠点	<その他>
研究学園拠点	高道自動車道・主な道路
産業拠点	河川
産業立地検討エリア	都市計画区域(地域界)
産業立地検討幹線道路	行政界(地域界)
歴史文化拠点	地域界
	<避難施設>
	避難所、緊急避難場所(地震・津波)
	津波避難タワー・津波避難場所、津波避難ビル

図 北西地域の地域づくり方針図

(4) 中央地域【長岡、野田、後免、大篠地区】

1) 地域の現状等と主な課題

①地域の概況

ア 位置、特性

本市の中央部に位置し、JR土讃線、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線、とさでん交通後免線や、国道55号、195号などの主要な幹線道路が集中しています。

南国市役所やJR後免駅を中心に中心市街地が形成され、一帯が市街化区域になっています。また、商業、医療、福祉などの多様な生活サービス施設が集積しています。

周辺は市街化調整区域となり、集落が散在するとともに優良農地が広がっています。

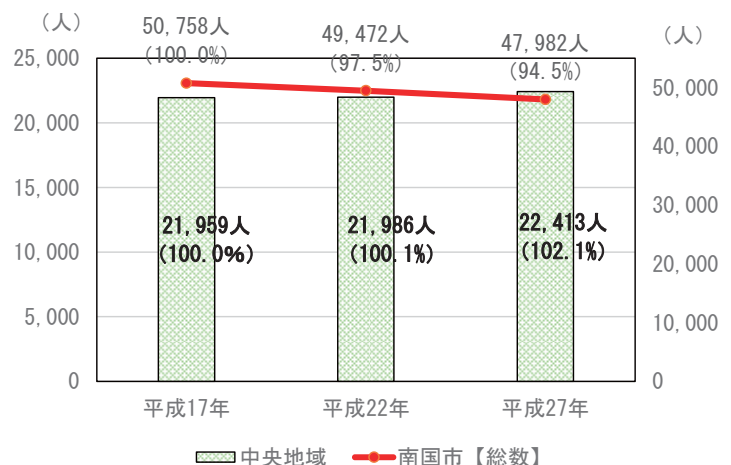


図 中央地域位置図

イ 人口の推移

平成27年時点の人口は22,413人で、10年前(平成17年)の102.1%となり、6地域の中で唯一増加が続いています。

南国市(全市)では平成27年人口は、平成17年の94.5%に減少しています。



資料：国勢調査

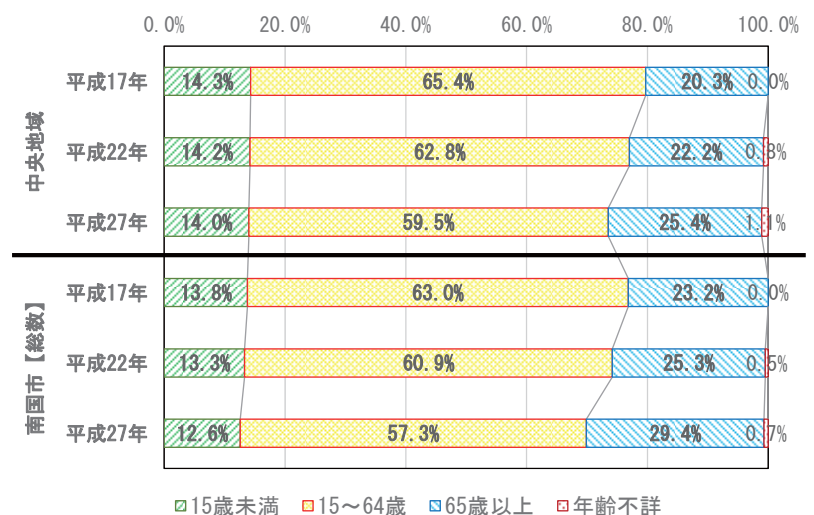
図 人口の推移

ウ 年齢3区分別人口構成比

平成27年時点において、15歳未満人口は14.0%、65歳以上人口は25.4%となり、少子・高齢化がみられます。

しかし、南国市(全市)の中では15歳未満や15~64歳人口の比率は高く、一方65歳以上人口の比率は低くなっています。

南国市(全市)では平成27年において、15歳未満人口は12.6%、65歳以上人口は29.4%となっています。



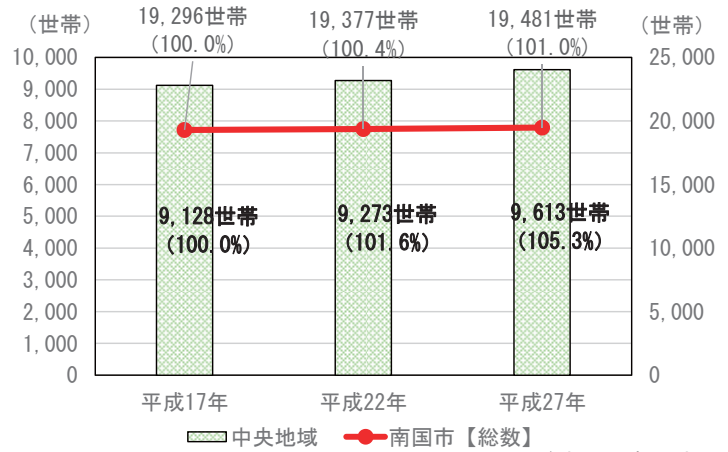
資料：国勢調査

図 年齢3区分別人口構成比

工 世帯数の推移

平成 27 年時点の世帯数は 9,613 世帯で、10 年前（平成 17 年）の 105.3%となり、増加が続いています。

南国市（全市）では平成 27 年世帯数は、平成 17 年の 101.0%に微増しています。



資料：国勢調査

図 世帯数の推移

オ お住まいの周辺環境の項目別満足度【市民意向調査結果、2017（平成 29）年 8 月調査】

“自然等”、“安全性”については全項目がプラス（満足とする回答者が多い。）の評価、“快適性”や“利便性等”についても多くの項目がプラスの評価となっています。

マイナス（不満足とする回答者が多い。）の評価は、“快適性”については「生活道路の整備」（-0.11）、「公園や広場の整備」（-0.33），“利便性等”については「図書館」（-0.34）、「スポーツ・レクリエーション施設」（-0.38）、「娯楽施設」（-0.72）の計 5 項目（全 25 項目）となっています。

全市の回答でマイナスの評価となっている「電車・バスなどの公共交通の便」「河川・水路の整備」「下水道の整備」「高齢者等の福祉施設」の評価がプラスに変化しています。

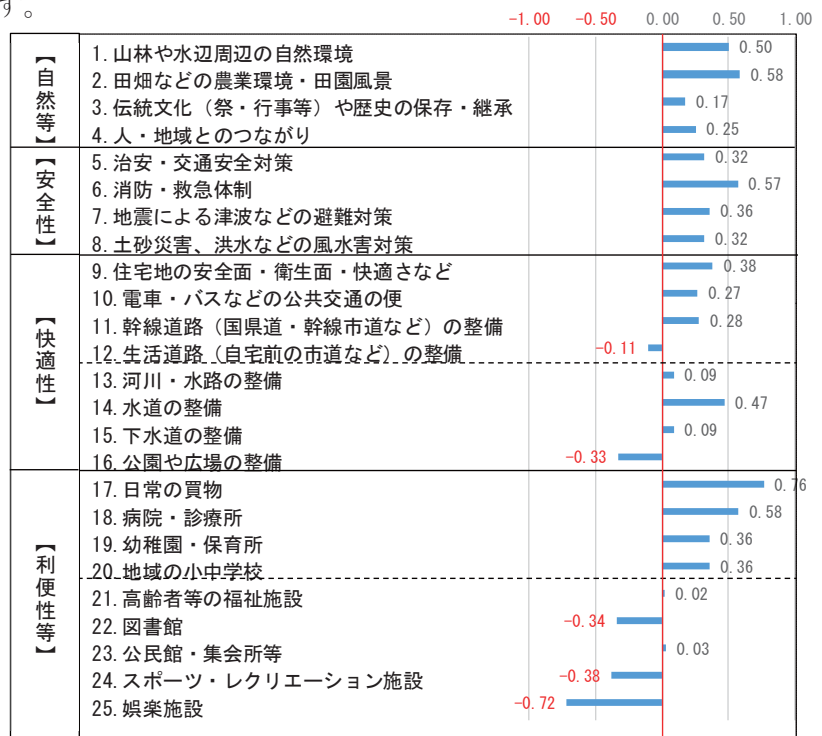


図 中央地域・回答者の集計結果
（回答票総数 524 票＝100.0%）

注：「満足」：+2点、「やや満足」：+1点、「ふつう」：0点、「やや不満」：-1点、「不満」：-2点とし、合計点数を回答票数で除した平均値を満足度の評価点として整理しています。

②主な課題

中央地域の現状、住民の意向等を踏まえると、次の主な課題が整理できます。

《主な課題》

- 市街地の分散や郊外部での商業施設立地等に伴ない、中心市街地の商業機能等が低下していることから、中心市街地周辺に各種生活サービス施設を集積することが求められています。
- 全市的には人口が減少する中で、中心市街地を中心とした人口増加傾向を継続させ、一定の人口密度・規模を維持した市街地の形成が求められています。
- 子育て世帯等の人口増加に伴う児童・生徒数の急増に対応した保育・教育施設の充実が望まれています。
- 狭あい道路の改善や公園・広場等の整備による居住環境の向上が望まれています。
- 市街化調整区域の集落では人口減少が続いており、地域コミュニティ機能を維持するための対応が必要になっています。
- 国道 55 号沿道等は利便性を活かした秩序ある活用が望まれています。

2) 地域づくりの目標

南国市役所やＪＲ後免駅周辺の本市の中心市街地周辺において、安全性や利便性等が高い立地条件を活かし、子育て世代や若者を中心とする人口増加傾向を継続させるとともに高齢者の居住継続を支援します。あわせて商業、医療、福祉、文化等の多様な生活サービス施設を集積を誘導し、本市の中心拠点として居住・都市機能が集約された中心市街地づくりを目指します。また、周辺地域において集落の定住環境づくりや交通要衝での産業活動の支援に努めます。

《地域づくりのテーマ》

**安全で利便性が高く、
多様な生活サービスと暮らしが集まる中心市街地づくり**

3) 地域づくりの方針

“地域づくりの目標”の実現に向けて、次の“地域づくりの方針”を定めます。

《地域づくりの方針》

- ①多様な生活サービス機能が充実した中心拠点づくりを図ります。
- ②子育て世代や若者、高齢者等の誰もが安心して住み続けられるよう居住環境を充実し、まちなか居住を誘導します。
- ③ＪＲ後免駅を中心とする幹線道路網や交通結節機能の充実を図ります。
- ④市民の憩い・交流の場の活用や公園・緑地の保全を促進します。
- ⑤古くから住み続けている集落の定住環境づくりを促進します。
- ⑥田園ゾーンにおいて、農業を活かした観光機能の充実を促進します。
- ⑦交通要衝の立地条件を活かし、産業の秩序ある立地を検討します。

①多様な生活サービス機能が充実した中心拠点づくりを図ります。

ア 幹線道路の整備を契機として中心市街地の再整備を誘導します。

- ・(都) 南国駅前線、(都) 高知南国線の整備にあわせて中心市街地の再整備を誘導し、沿道等に立地が期待される商業施設等の立地を民間活力の活用により促進します。

イ 医療、文化、商業、余暇施設等の多様な生活サービス施設の集積を誘導します。

- ・南国市役所周辺の都市機能誘導区域において、病院、スーパーマーケット、銀行、図書館、地域交流センター、まちおこしセンターを南国市立地適正化計画の誘導施設に定め、これらの整備や保全、機能充実を図ります。
- ・地域交流センター、まちおこしセンターの整備を起爆剤として、空き地・空き店舗の活用や低・未利用地等の土地の高度利用等により商業・余暇施設等の立地誘導に努め、多様な生活サービス施設を集積し、魅力を感じる賑わい空間の創出を図ります。また、必要に応じて用途地域等の見直しを検討します。
- ・図書館は、市民が集まりやすく利便性が高い場所において整備を推進します。

②子育て世代や若者、高齢者等の誰もが安心して住み続けられるよう居住環境を充実し、まちなか居住を誘導します。

ア 子育て世代や若者の転入・流入を引き続き支援するとともに、高齢者等が安心して暮らし続けるための居住環境の充実を促進します。

- ・南国市役所周辺の居住誘導区域において、保育施設等や教育施設の充実、良質な住宅・住宅地の供給等により、転入・流入が続いている子育て世代や若者の居住を引き続き誘導します。
- ・また、医療・福祉・文化施設等の充実等により、高齢者等が暮らし続けるための安心できる居住環境の充実を促進します。
- ・これらの居住の誘導や継続支援等により、まちなか居住へ緩やかな誘導を図ります。

イ 空き地、空き家の活用や道路・広場の整備を検討し、良質な住宅地の形成を促進します。

- ・空き家バンクの積極的な利用により空き家、空き地等を再利用するとともに、狭あい道路整備等促進事業の拡充やまちなか広場の整備方策を地域住民との協働により検討し、良質な住宅地の形成を促進します。

ウ 低・未利用地等において面的な整備を検討します。

- ・篠原土地区画整理事業を引き続き推進するとともに、市街地内の低・未利用地等については土地区画整理事業等の面的な整備を検討します。

エ JR後免駅周辺において、低・未利用地等の高度利用の誘導を検討します。

- ・ JR後免駅から後免町商店街等の利便性が高い区域において、道路等の基盤施設の整備状況に応じて、低・未利用地等を活用して土地の高度利用による住宅等の立地の誘導を検討します。

オ 市街地等における防火機能の向上を検討します。

- ・ 市街地等において延焼防止による防火機能の向上を目指し、建築物の屋根の構造、外壁及び軒裏で延焼のおそれがある部分の構造を規定する区域の拡大を検討します。

③ JR後免駅を中心とする幹線道路網や交通結節機能の充実を図ります。

ア 幹線道路等の整備とともに賑わい空間の創出を図ります。

- ・ (都) 南国駅前線、(都) 高知南国線、JR後免駅前広場の整備、(都) 高知南国線の高知市方面の整備を推進し、幹線道路網の充実を図ります。
- ・ (都) 南国駅前線をシンボルロードと位置づけ、快適な道路・広場空間を整備するとともに、周辺地においてまちなか歩きルート、広場を整備し、市民・来街者が回遊する賑わい空間の創出を図ります。

イ 交通結節機能を充実し、公共交通の利用を促進します。

- ・ JR後免駅前広場の整備にあわせて、鉄道とバス、自動車、自転車との乗り継ぎのための交通空間や広場、緑地等の環境空間を整備し、交通結節機能を充実して公共交通の利用を促進します。
- ・ 土佐くろしお鉄道後免町駅、とさでん交通後免町駅の周辺に駐車場、駐輪場の立地の誘導を検討し、パークアンドライドを拡充して公共交通の利用に努めます。

④市民の憩い・交流の場の活用や公園・緑地の保全を促進します。

ア 南国中央公園は整備方針を明確化し、計画的な整備に努めます。

- ・ 南国中央公園は、市民の意向と今後のまちづくり方針を総合的に勘案しつつ長期的な観点に立って整備方針を明確化し、計画的な整備に努めます。

イ 吾岡山文化の森一帯を「スポーツ・レクリエーション拠点」として活用を促進します。

- ・ 吾岡山文化の森一帯を「スポーツ・レクリエーション拠点」として位置づけ、市民のスポーツ、イベント・レクリエーション活動の拠点として活用を促進します。

ウ 南国緑地は市街地の緑地として保全を促進します。

- ・ 南国緑地は市街地の貴重な緑地であることから、保全を促進します。

⑤古くから住み続けている集落の定住環境づくりを促進します。

- ・集落定住エリアにおいて、長期的観点に立って、地域住民等との協働により狭あい道路等の改善や空き家の活用を促進します。また、空き地・未利用地等の利用を市街化調整区域の開発許可基準等に照らして検討し、一定の人口規模の確保に取り組み、地域コミュニティ機能の維持に努めます。
- ・長岡小学校、後免野田小学校付近を「集落拠点」として位置づけ、既存の生活サービス施設の保全、活用等を促進するとともに、周辺における集住への緩やかな誘導に努めます。
- ・集落周辺の優良農地、豊かな自然環境は保全を図ります。
- ・また、他地域との交流の利便性を向上させるため、(都)西山能間線の整備の推進を検討します。

⑥田園ゾーンにおいて、農業を活かした観光機能の充実を促進します。

- ・西島園芸団地、観光農園周辺を「観光・レクリエーション拠点」として位置づけ、既存の農業・園芸施設に加え、体験型農業施設や市民農園の整備により、参加型観光・交流機能の強化を促進します。また、地域内での交流人口の増加に努めて観光施設等の拡充や創出を促進し、まちの活力向上に努めます。

⑦交通要衝の立地条件を活かし、産業の秩序ある立地を検討します。

- ・なんこく南インターチェンジ周辺、とさでん交通小籠通駅周辺を「産業拠点」に位置づけ、周辺の集落や農業への影響に配慮しつつ良好な操業環境の確保を促進するとともに、新たな産業の計画的な立地を検討します。
- ・市街化調整区域に位置する国道 32 号、55 号の沿道や、国道 195 号と(主)南国インター線との交差点の適地において、自然環境の保全や農業との調和を基本とし、新たな産業用地の計画的な整備を検討します。
- ・また、国道 55 号、(都)篠原小籠線に囲まれた市街化調整区域において、中心市街地に各種都市機能を集積することを基本としつつ、これを補完する商業・サービス地の形成を検討します。

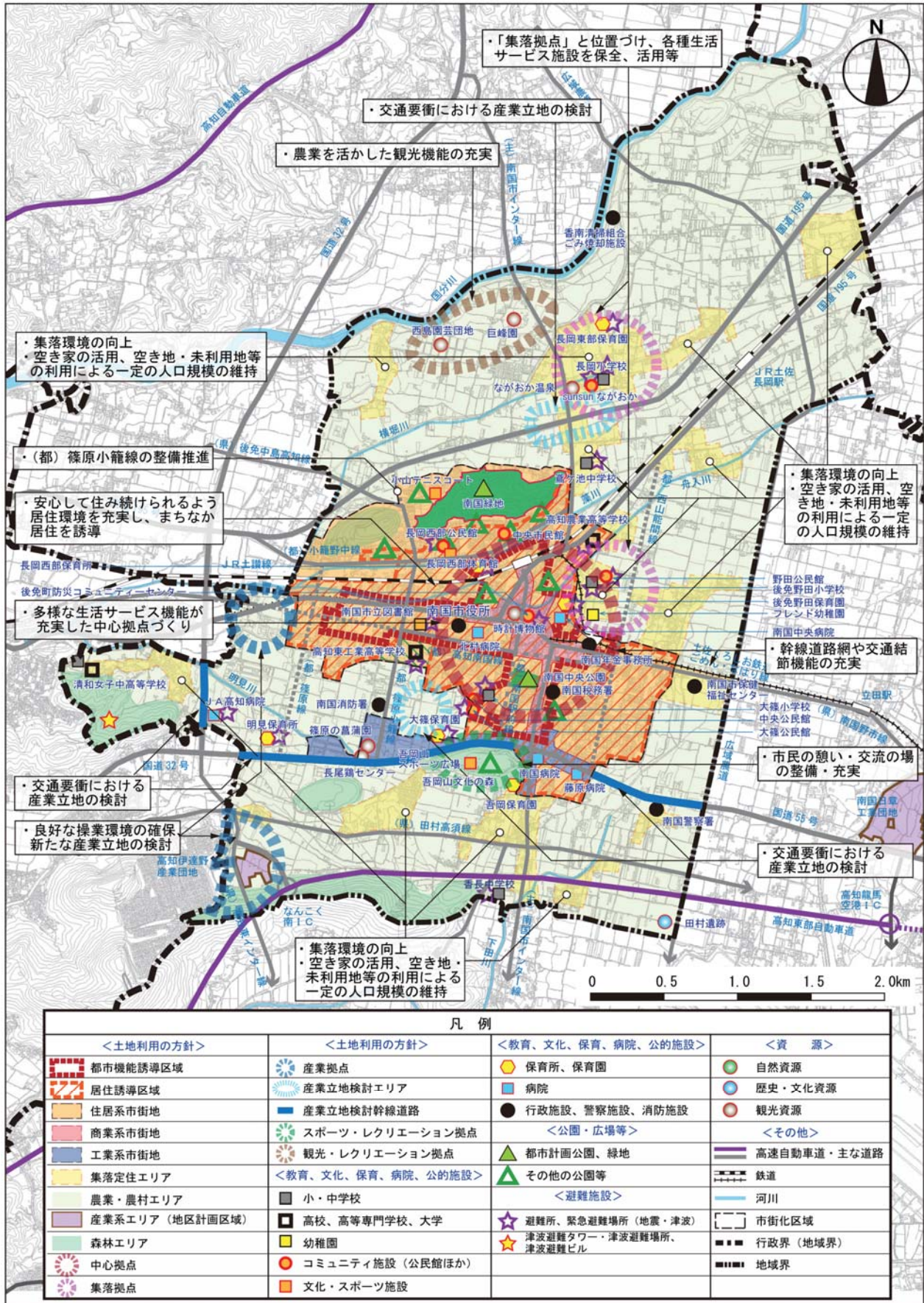


図 中央地域の地域づくり方針図

(5) 南東地域【岩村、日章、前浜地区】

1) 地域の現状等と主な課題

①地域の概況

ア 位置、特性

南東地域は本市の南東部に位置し、物部川右岸の標高約 20m未滿の平野部で構成されています。

当該地域の南側は津波浸水想定区域となり、津波避難タワー等が整備されています。

高知龍馬空港が土佐湾に面してあり、周辺に高知大学農学部、同海洋コア総合研究所、高知工業高等専門学校が立地しています。また、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線、高知東部自動車道、国道 55 号が東西方向に通り、国道 55 号沿道に南国日章工業団地が建設されています。

全域が市街化調整区域で、集落は主要地方道や県道等の沿道に形成され、周辺は優良農地が広がっています。

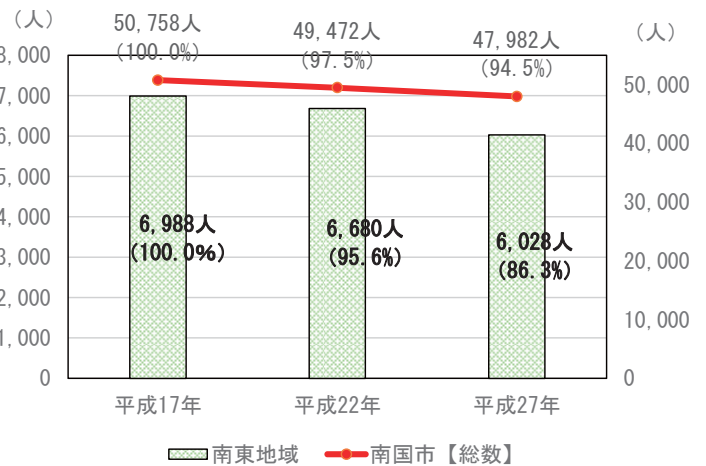


図 南東地域位置図

イ 人口の推移

平成 27 年時点の人口は 6,028 人で、10 年前（平成 17 年）の 86.3% となり、減少が続いています。

南国市（全市）における平成 17～27 年間の人口推移（94.5% に減少）より、減少率が大きくなっています。



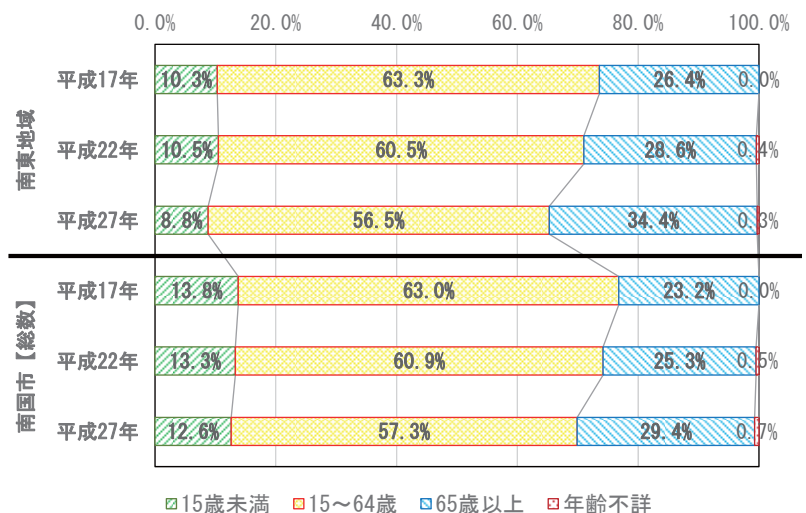
資料：国勢調査

図 人口の推移

ウ 年齢3区分別人口構成比

平成 27 年時点において、15 歳未満人口は 8.8%、65 歳以上人口は 34.4% となっています。

南国市（全市）の平成 27 年時点の 15 歳未満人口は 12.6%、65 歳以上人口は 29.4% で、この比率と比べて少子・高齢化が進んでいます。



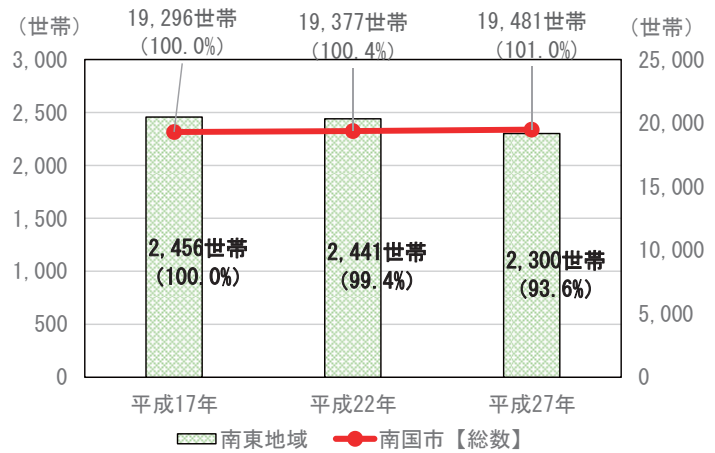
資料：国勢調査

図 年齢3区分別人口構成比

工 世帯数の推移

平成 27 年時点の世帯数は 2,300 世帯で、10 年前（平成 17 年）の 93.6% となり、減少が続いています。

南国市（全市）では平成 17～27 年間に於いて、世帯数は 101.0% に微増しています。



資料：国勢調査

図 世帯数の推移

オ お住まいの周辺環境の項目別満足度【市民意向調査結果、2017（平成 29）年 8 月調査】

「田畑などの農業環境・田園風景」（+0.68）、「山林や水辺周辺の自然環境」（+0.48）などの“自然等”、「消防・救急体制」（+0.51）、「治安・交通安全対策」（+0.41）などの“安全性”はプラス（満足とする回答者が多い。）の評価となっています。

一方、「電車・バスなどの公共交通の便」（-1.00）、「下水道の整備」（-0.57）、「公園や広場の整備」（-0.40）、「生活道路の整備」（-0.33）などの“快適性”や、「娯楽施設」（-0.72）、「図書館」（-0.67）、「スポーツ・レクリエーション施設」（-0.33）、「高齢者等の福祉施設」（-0.30）などの“利便性等”は多数の項目がマイナス（不満足とする回答者が多い。）の評価となっています。

全市の回答でプラスの評価となっている「幹線道路の整備」「日常の買物」「病院・診療所」「幼稚園・保育所」の評価がマイナスに変化しています。

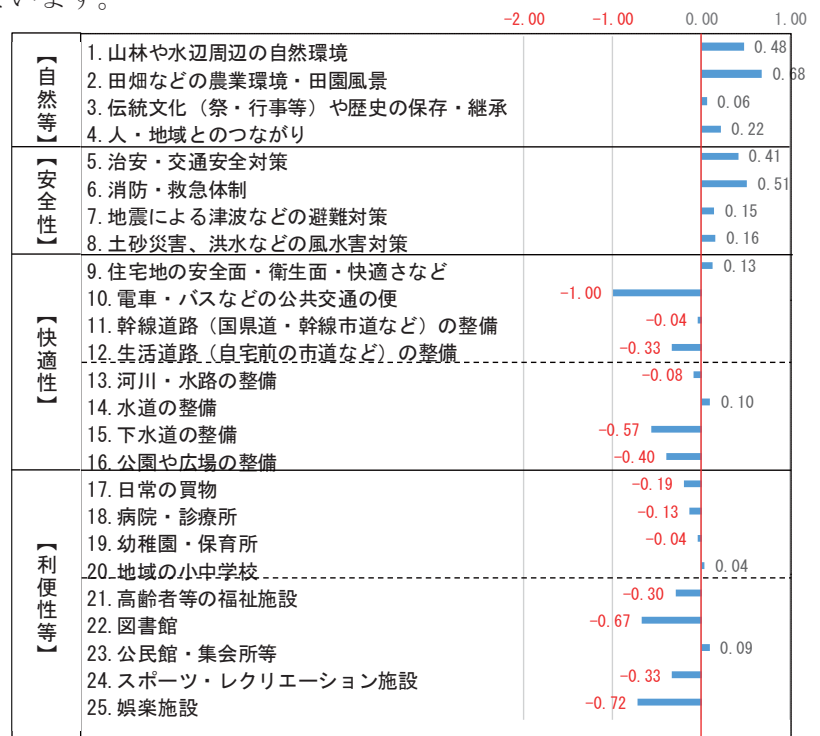


図 南東地域・回答者の集計結果

（回答票総数 146 票＝100.0%）

注：「満足」：+2点、「やや満足」：+1点、「ふつう」：0点、「やや不満」：-1点、「不満」：-2点とし、合計点数を回答票数で除した平均値を満足度の評価点として整理しています。

②主な課題

南東地域の現状、住民の意向等を踏まえると、次の主な課題が整理できます。

《主な課題》

- 人口の大きな減少が続いており、地域コミュニティ機能を維持するための対応が必要になっています。
- 公共交通や下水道、公園等の整備が求められています。
- 高等教育機関や高知龍馬空港、国道 55 号の利便性を活かした産業の創造が望まれています。
- 南海トラフ巨大地震による津波浸水等に備えた避難対策の周知・徹底が求められています。
- 海岸等の自然環境を活かしたまちづくりが望まれています。

2) 地域づくりの目標

土佐湾、物部川の自然環境や田園環境を活しながら、心豊かに暮らし続けられる集落環境づくりと高知龍馬空港や高等教育機関の立地を活用した産学連携による研究拠点の創出を目指します。

《地域づくりのテーマ》

**海と空港を臨む田園環境に恵まれ、
心豊かな暮らしと教育研究を育むまちづくり**

3) 地域づくりの方針

“地域づくりの目標”の実現に向けて、次の“地域づくりの方針”を定めます。

《地域づくりの方針》

- ①安心して暮らし続けられる集落の定住環境づくりを促進します。
- ②高等教育・研究機関と連携する産業等の創造を検討します。
- ③物部川、海岸線の水辺や空港周辺緑地等を保全し、自然と触れ合うことができるレクリエーションエリアの形成に努めます。

①安心して暮らし続けられる集落の定住環境づくりを促進します。

ア 集落環境の向上と地域コミュニティの維持に努めます。

- ・集落定住エリアにおいて、長期的観点に立って、地域住民等との協働により狭あい道路等の改善や空き家等の活用を促進し、集落環境の向上と一定の人口規模の確保に取り組み、地域コミュニティの維持に努めます。

- ・岩村ふれあいセンター、日章小学校、大湊小学校付近を「集落拠点」として位置づけ、既存の生活サービス施設の保全、活用等を促進します。
- ・集落周辺の優良農地、豊かな自然環境は保全を図ります。

イ 津波浸水対策の充実や防災意識の向上等に取り組みます。

- ・南海トラフ地震による津波浸水想定区域においては、安全な居住地への住み替えを緩やかに誘導するため、希望者への支援に努めます。
- ・津波対策として、整備が一定完了した津波避難タワー等の緊急避難場所を活用し、迅速かつ安全な避難が可能となるよう避難路・誘導看板等のより一層の充実を図るとともに、津波ハザードマップの活用や避難訓練や学習会の開催等により市民の防災意識の向上に取り組みます。
- ・これらの「事前対策」に加え、集落の再整備に係る検討を含めて「応急対策」「復旧」「復興」のまちづくり計画の策定を検討します。

ウ 公共交通の確保に向けた検討を推進します。

- ・公共交通が確保できていない地域において、乗合タクシーを含め、多様な手法による移動手段の確保に向けた検討を推進します。
- ・また、中心拠点へのバスダイヤや経路等の見直しなどにより、公共交通サービスの改善を検討します。

②高等教育・研究機関と連携する産業等の創造を検討します。

ア 産学連携による研究開発・産業拠点の整備を検討します。

- ・高知龍馬空港周辺を「産学連携拠点」と位置づけ、高知大学農学部や同海洋コア総合研究所、高知工業高等専門学校と新たな企業による産学連携による研究開発・産業拠点の整備を検討します。
- ・あわせて、研究者、学生、留学生等の居住・交流エリアの整備等について検討します。

イ 交通要衝の立地条件を活かし、産業の秩序ある立地を検討します。

- ・南国日章工業団地は「産業拠点」として位置づけて早期の完成を目指し、企業誘致を促進します。
- ・国道 55 号沿道の適地や立田の工場跡地において、自然環境の保全や農業との調和を基本とし、新たな産業用地の計画的な整備を検討します。

③物部川、海岸線の水辺や空港周辺緑地等を保全し、自然と触れ合うことができるレクリエーションエリアの形成に努めます。

ア 物部川や海岸線の水辺を守り、自然と触れ合うことができるレクリエーションエリアの形成に努めます。

- ・物部川や土佐湾に面する海岸の自然環境や景観の保全に努めます。また、これらを守るための市民活動の支援を図ります。
- ・物部川沿岸・河口周辺を「水と緑の拠点」と位置づけ、海岸や物部川の自然資源や景観の保全を促進します。

イ 空港周辺緑地は、集落環境の保全のための緑地として活用を継続します。

- ・高知龍馬空港北端のやよい広場や南端のトリム広場等の「高知空港緑の広場」を保全し、集落環境の保全のための防災林や緩衝緑地として活用を図ります。

ウ 高知龍馬空港周辺の掩体群等の景観の保全に努めます。

- ・高知龍馬空港周辺の掩体群周辺は「歴史文化拠点」として位置づけ、一部を公園として保全を図るとともに、歴史的な特色を活かした景観の保全に努めます。

エ 市立スポーツセンター・グラウンドの活用を促進します。

- ・市立スポーツセンター・グラウンドは「スポーツ・レクリエーション拠点」として位置づけ、市民がスポーツ等を通じて健康保持、交流する場として活用を促進します。

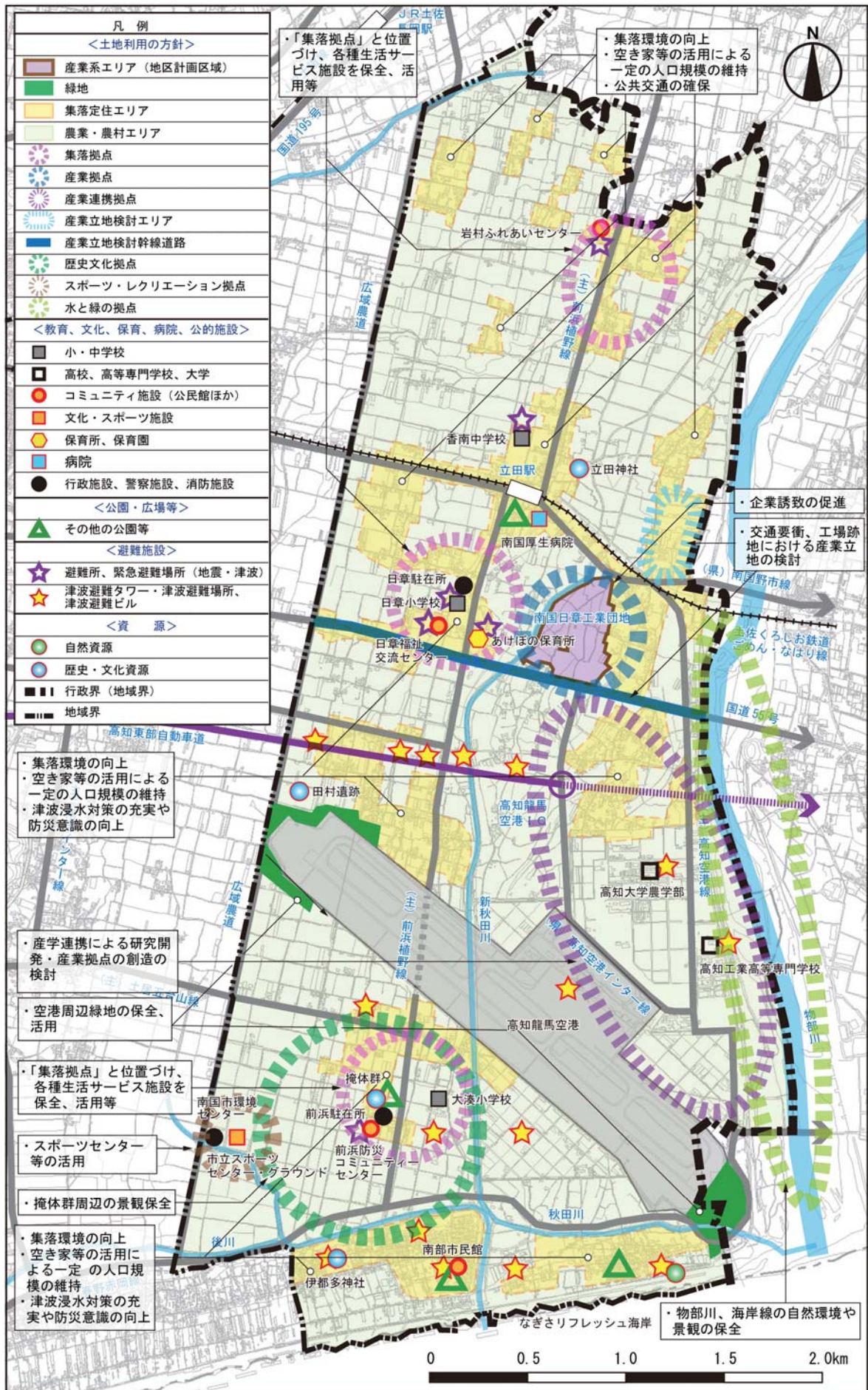


図 南東地域の地域づくり方針図

(6) 南西地域【三和、稲生、緑ヶ丘、十市地区】

1) 地域の現状等と主な課題

①地域の概況

ア 位置、特性

南西地域は本市の南西部に位置し、土佐湾に面する平野部と浦戸湾に注ぐ下田川の谷部から構成されています。

標高約 10m未滿の平野部や谷部は津波浸水想定区域になり、津波避難タワー等が整備されています。

高知市に接する緑ヶ丘は住宅市街地として、また南部には流通団地が建設され、これらの区域は市街化区域になっています。

その他の地域は市街化調整区域で、県道沿道等に集落が形成され、周辺は優良農地が広がっています。

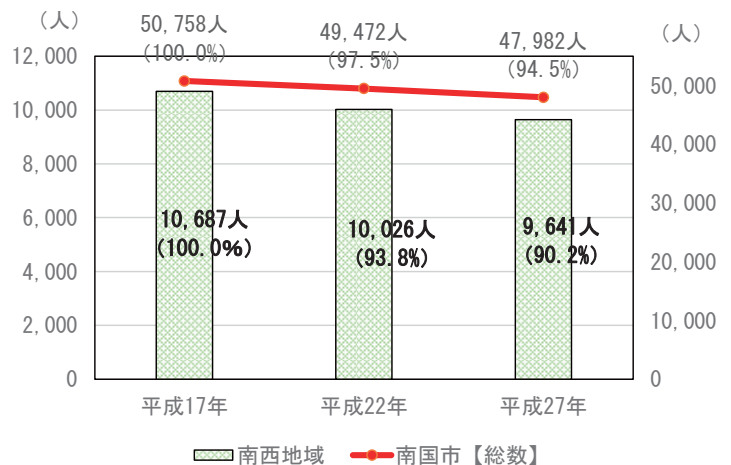


図 南西地域位置図

イ 人口の推移

平成 27 年時点の人口は 9,641 人で、10 年前（平成 17 年）の 90.2% となり、減少が続いています。

南国市（全市）における平成 17～27 年間の人口推移（94.5% に減少）より、減少率が大きくなっています。

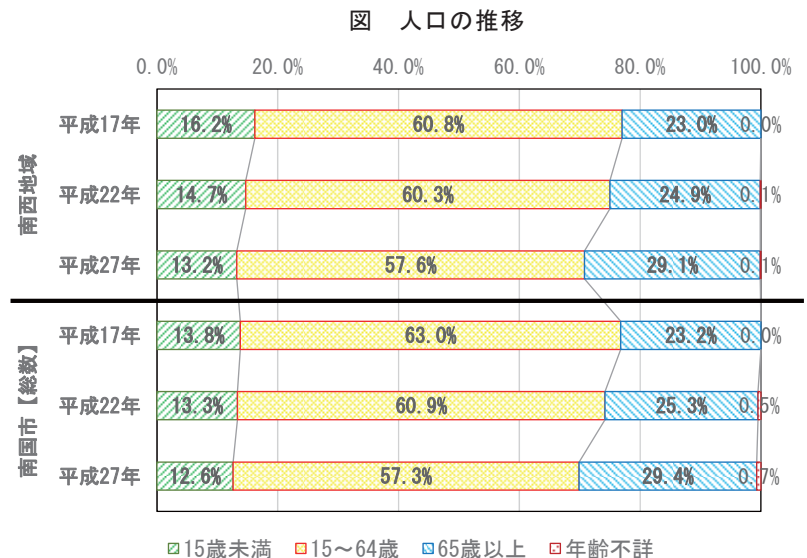


資料：国勢調査

ウ 年齢3区分別人口構成比

平成 27 年時点において、15 歳未満人口は 13.2%、65 歳以上人口は 29.1% となっています。

南国市（全市）の平成 27 年時点の 15 歳未満人口は 12.6%、65 歳以上人口は 29.4% で、この比率とほぼ同様に少子・高齢化が進んでいます。



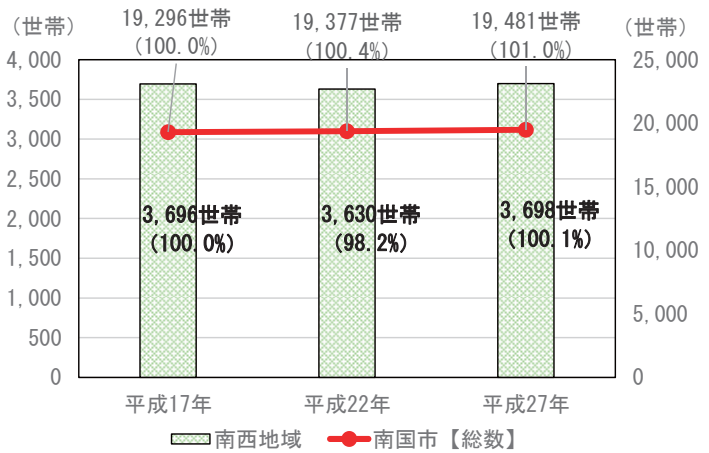
資料：国勢調査

図 年齢3区分別人口構成比

工 世帯数の推移

平成 27 年時点の世帯数は 3,698 世帯で、10 年前（平成 17 年）の 100.1%となり、横ばい傾向となっています。

南国市（全市）では平成 17～27 年間に於いて、世帯数は 101.0%に微増しています。



資料：国勢調査

図 世帯数の推移

オ お住まいの周辺環境の項目別満足度【市民意向調査結果、2017（平成 29）年 8月調査】

「山林や水辺周辺の自然環境」（+0.58）、「田畑などの農業環境・田園風景」（+0.52）などの“自然等”、「治安・交通安全対策」（+0.31）などの“安全性”はプラス（満足とする回答者が多い。）の評価となっています。

一方、「電車・バスなどの公共交通の便」（-1.08）、「公園や広場の整備」（-0.28）、「生活道路の整備」（-0.19）などの“快適性”や、「娯楽施設」（-0.86）、「図書館」（-0.83）、「スポーツ・レクリエーション施設」（-0.36）、「高齢者等の福祉施設」（-0.35）などの“利便性等”は多数の項目がマイナス（不満足とする回答者が多い。）の評価となっています。

全市の回答でプラスの評価となっている「地震による津波などの避難対策」「土砂災害、洪水などの風水害対策」「幹線道路の整備」「日常の買物」「病院・診療所」「公民館・集会所等」の評価がマイナスに変化しています。

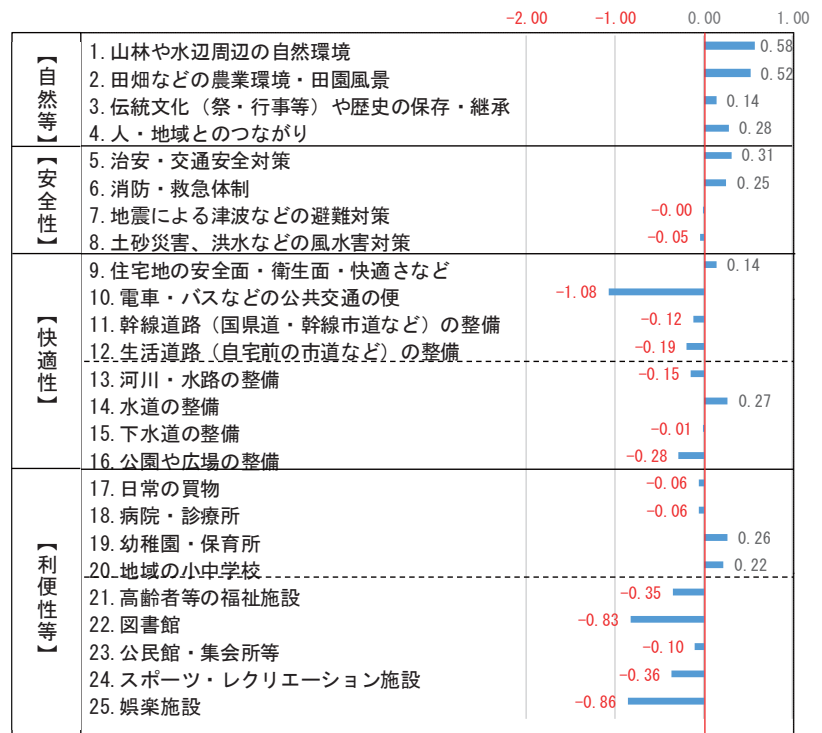


図 南西地域・回答者の集計結果

（回答票総数 272 票＝100.0%）

注：「満足」：+2点、「やや満足」：+1点、「ふつう」：0点、「やや不満」：-1点、「不満」：-2点とし、合計点数を回答票数で除した平均値を満足度の評価点として整理しています。

②主な課題

南西地域の現状、住民の意向等を踏まえると、次の主な課題が整理できます。

《主な課題》

- 緑ヶ丘の市街化区域では人口の増加傾向を継続させ、一定の人口密度・規模を維持した市街地の形成が求められています。
- 市街化調整区域では人口の大きな減少が続いており、地域コミュニティ機能を維持するための対応が必要になっています。
- 公共交通や下水道、公園等の整備が求められています。
- 南海トラフ巨大地震による津波浸水等に備えた避難対策の周知・徹底が求められています。
- 海岸等の自然環境を活かしたまちづくりが望まれています。

2) 地域づくりの目標

土佐湾の幸、田園環境や農産物に恵まれ、高知市や流通団地に隣接して職住が近接している立地条件を活かし、居住、産業の拠点を維持・充実するとともに、誰もが安心して暮らし続けられる居住環境づくりを目指します。

《地域づくりのテーマ》

**海に面する自然や田園の幸に恵まれ、
誰もが安心して暮らし続けられる職住近接のまちづくり**

3) 地域づくりの方針

“地域づくりの目標”の実現に向けて、次の“地域づくりの方針”を定めます。

《地域づくりの方針》

- ① 地域拠点の緑ヶ丘において、誰もが安心して住み続けられる居住環境を充実し、居住の継続支援や誘導を図ります。
- ② 安心して暮らし続けられる集落の定住環境づくりを促進します。
- ③ 流通団地の良好な操業環境の充実を促進します。
- ④ 海岸線の水辺や歴史資源周辺の景観の保全等に努めるとともに、自然と触れ合うことができるレクリエーションエリアの形成に努めます。

① 地域拠点の緑ヶ丘において、誰もが安心して住み続けられる居住環境を充実し、居住の継続支援や誘導を図ります。

ア 地域住民に必要な各種の生活サービス施設の保全、充実を図ります。

- ・ 地域拠点の緑ヶ丘において、既存の保育施設、教育施設、商業施設の保全、機能充実とともに高齢者福祉施設、文化施設の立地や再配置を検討し、生活サービス施設の充実を図ります。

イ 緑ヶ丘において居住の継続支援や誘導を図ります。

- ・緑ヶ丘の住宅市街地において、各種の生活サービス施設の保全、充実とともに、空き家、空き地の活用等により良質な住宅地を保全し、子育て世代や高齢者等が安心して暮らし続けるための居住環境を充実し、居住の継続支援や誘導を図ります。

②安心して暮らし続けられる集落の定住環境づくりを促進します。

ア 集落環境の向上と地域コミュニティの維持に努めます

- ・集落定住エリアにおいて、長期的観点に立って、地域住民等との協働により狭あい道路等の改善や空き家等の活用を促進し、集落環境の向上と一定の人口規模の確保に取り組み、地域コミュニティの維持に努めます。
- ・三和小学校、稲生小学校付近を「集落拠点」として位置づけ、既存の生活サービス施設の保全、活用等を促進します。
- ・集落周辺の優良農地、豊かな自然環境は保全を図ります。
- ・他地域との交流の利便性を向上させるため、(都) 大津十市線の下田川架橋の整備を働きかけます。
- ・中心拠点へのバスダイヤや経路等の見直しなどにより、公共交通サービスの改善を検討します。

イ 津波浸水対策の充実や防災意識の向上等に取り組みます。

- ・南海トラフ地震による津波浸水想定区域においては、安全な居住地への住み替えを緩やかに誘導するため、希望者への支援に努めます。
- ・津波対策として、整備が一定完了した津波避難タワー等の緊急避難場所を活用し、迅速かつ安全な避難が可能となるよう避難路・誘導看板等のより一層の充実を図るとともに、津波ハザードマップの活用や避難訓練や学習会の開催等により市民の防災意識の向上に取り組みます。
- ・これらの「事前対策」に加え、集落や公共施設の再整備に係る検討を含めて「応急対策」「復旧」「復興」のまちづくり計画の策定を検討します。

ウ 石灰山の採掘跡地の利活用を検討します。

- ・高知東部自動車道北西側の石灰山に残されている採掘跡地は、自然環境や景観の保全に配慮しつつ、災害時の避難場所や地域の産業用地としての活用等も視野に入れ、地域住民との協働により利活用の方策を検討します。

③流通団地の良好な操業環境の充実を促進します。

- ・なんごく流通団地、高知みなみ流通団地は「産業拠点」として位置づけ、周辺の集落や農業への影響に配慮しつつ良好な操業環境の確保を促進します。また、流通の近代化・高速化に対応した土地利用の再編を検討します。

④海岸線の水辺や歴史資源周辺の景観の保全等に努めるとともに、自然と触れ合うことができるレクリエーションエリアの形成に努めます。

ア 海岸の自然環境や歴史資源の景観保全、活用に努めます。

- ・土佐湾に面する海岸の自然環境や景観の保全に努めます。また、これらを守るための市民活動の支援を図ります。
- ・由緒ある琴平神社や禅師峰寺周辺は、緑豊かな自然環境を保全するとともに、土佐湾を望む眺望地点であることを考慮し、休息・交流の場としての活用を検討します。

イ 石土池の環境保全に努めます。

- ・緑ヶ丘の石土池は、水質浄化や自然環境の保全に努め、地域住民の憩いの場やレクリエーションの場等として活用を促進します。

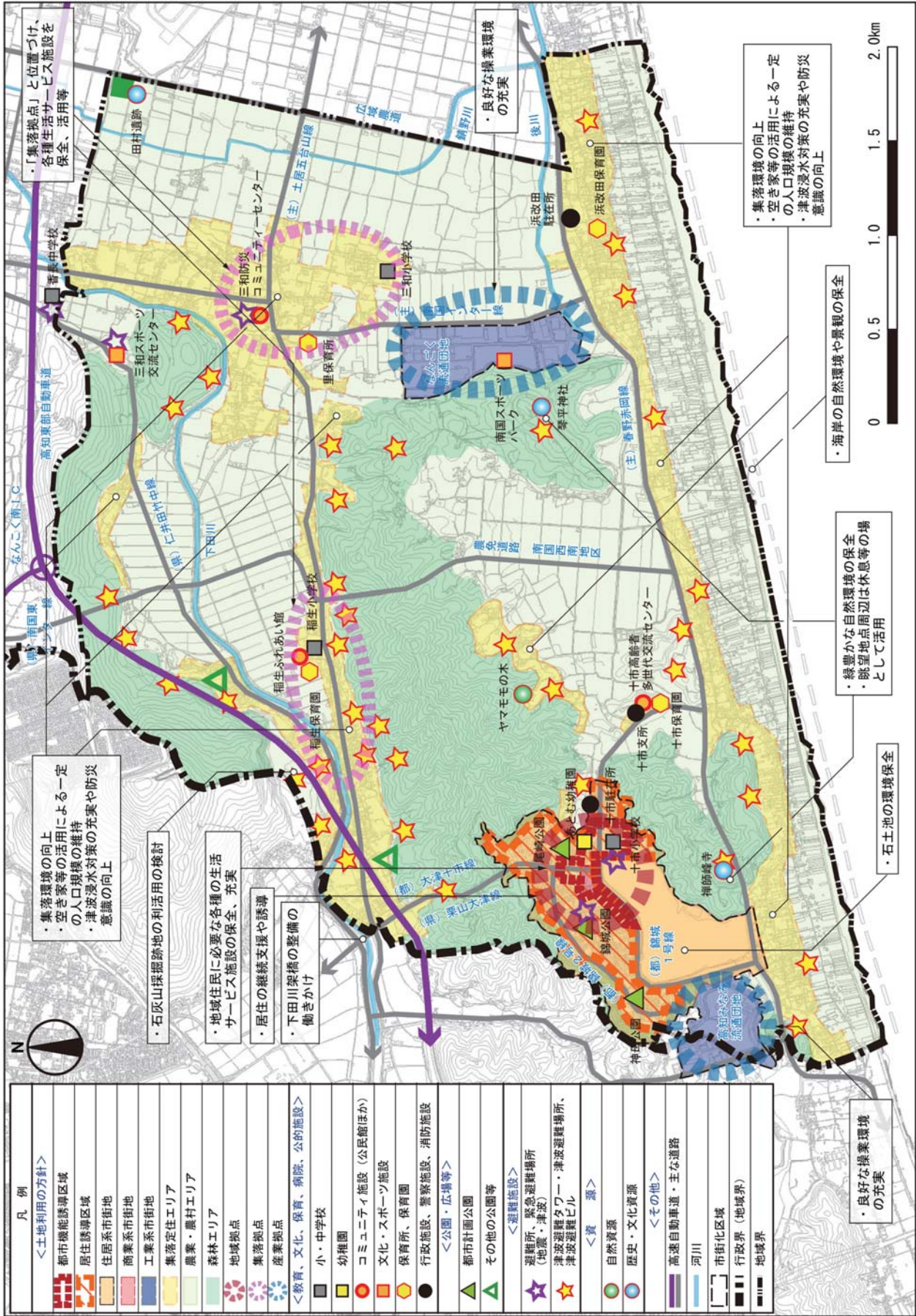


図 南西地域の地域づくり方針図